

# 北海道強靱化アクションプラン2020

令和2年(2020年)3月

北海道



# 1. 北海道強靱化計画の概要 (1)

北海道における国土強靱化関連施策の更なる推進を図るため、これまでの取組結果や近年の自然災害から得られた教訓、国の国土強靱化基本計画の見直しを踏まえて、北海道強靱化計画を改定

## ① 国全体で取り組むべき国土強靱化政策のあり方

北海道の強靱化に向けた取組をより実効あるものとするため、2015年(平成27年)3月に策定した現行計画の中で、国全体で取り組むべき国土強靱化施策のあり方を次のとおり提起。

### ■全国各地域の特性に応じた強靱化施策の推進

- ・ 国土を構成する各地域が自然災害リスクの特性等を踏まえ、独自の計画のもとで強靱化施策を推進することが必要

### ■分散型国土の形成促進

- ・ 首都直下地震等の発生が危惧される中、持続可能で強靱な国づくりに向けては、首都圏等への一極集中を早期に是正し、分散型国土への再構築を図ることが急務

### ■国全体のバックアップ体制の構築

- ・ 地域間のネットワークを基本とした国全体のバックアップ体制を早期に構築することが必要

5年を経た現在、東京圏への一極集中はむしろ加速

改めて、効率性の観点から過度に集中した国土構造のリスクを分散させるため、分散型国土構造の実現と地域間の連携に基づく国全体のバックアップ体制の構築に取り組む必要があることを提起。

## ② 国土強靱化に向けた北海道の役割

### 国土強靱化を支える北海道の強み

#### 地理的優位性

首都圏や関西圏から遠距離にあり同時被災リスクが低い。

#### 食料供給力

カロリーベースで200%を超える食料自給率。

#### エネルギーポテンシャル

太陽光、風力、バイオマスなど、再生可能エネルギーのポテンシャルは全国トップクラス。

#### 都市機能・人材

首都機能の代替が可能な札幌圏が存在。多様な高等教育機関が全道に存在。

#### 寒冷地技術

道外の冬季の防災対策などへの有効活用が期待できる。

北海道開拓・開発の歴史の中で培った経験と強みを活かし、北海道として新たな役割を担っていく。

リスク分散の受け皿

食料・エネルギーの安定供給

被災地への緊急支援

## ③ 北海道強靱化の目標

- これまで経験のない災害が発生  
(統計開始以来はじめて3個の台風が連続上陸、胆振東部地震では最大震度7)
- 人口減少が続く中、第2期の北海道創生総合戦略との調和

「強靱な北海道づくり」が必要

目標の継承

### 【目標】

- ◆大規模自然災害から道民の生命・財産と北海道の社会経済システムを守る
- ◆北海道の強みを活かし、国全体の強靱化に貢献する
- ◆北海道の持続的成長を促進する

## ④ 想定する自然災害とリスクシナリオ

### 道内における自然災害リスク

<p><b>地震・津波</b> 太平洋沖(根室沖)海溝型地震 <b>M7.8~8.5クラス 30年以内 80%程度</b> 日本海沿岸の津波浸水想定 ・津波高10m以上 21市町村</p> <p>←1993年 北海道南西地震</p> <p>内陸型地震 13の主要活断層</p> <p>2018年 胆振東部地震→</p>	<p><b>火山噴火</b> 9つの常時観測火山 (全国50火山)</p> <p>←2000年有珠山噴火↑</p>	<p><b>豪雨/暴風雨/竜巻/豪雪/暴風雪</b> 低気圧前線や台風による浸水被害、竜巻による人的被害、建物の破損が全道各地で発生</p> <p>2016年 8~9月 ←大雨等</p> <p>大雪、雪崩、吹雪による交通障害、家屋の倒壊、人的被害が頻繁に発生</p> <p>2013年 道東 暴風雪→</p>
---	---	--

### 道外における自然災害リスク

<p><b>首都直下地震</b> <b>M7クラス 30年以内 70%</b> ・建物全壊：約61万棟 ・死者数：約23,000人 ・経済被害：95.3兆円</p>	<p><b>南海トラフ地震</b> <b>M8~9クラス 30年以内 70~80%程度</b> ・建物全壊：約209.4万棟 ・死者数：約231,000人 ・経済被害：213.7兆円</p>
--	---

### 目標の実現に向け21のリスクシナリオ「起きてはならない最悪の事態」を設定

カテゴリー	リスクシナリオ
1 人命の保護	1-1 地震等による建築物等の大規模倒壊や火災に伴う死傷者の発生
	1-2 火山噴火・土砂災害による多数の死傷者の発生
	1-3 大規模津波等による多数の死傷者の発生
	1-4 突発的又は広域かつ長期的な市街地等の浸水
	1-5 暴風雪及び豪雪による交通途絶等に伴う死傷者の発生
	1-6 積雪寒冷を想定した避難体制等の未整備による被害の拡大
	1-7 情報収集・伝達の不備・途絶等による死傷者の拡大
2 救助・救急活動等の迅速な実施	2-1 被災地での食料・飲料水・電力・燃料等、生命に関わる物資・エネルギー供給の長期停止
	2-2 消防、警察、自衛隊等の被災等による救助・救急活動の停滞
	2-3 被災地における保健・医療・福祉機能等の麻痺
3 行政機能の確保	3-1 道内外における行政機能の大幅な低下
4 ライフラインの確保	4-1 長期的又は広範囲なエネルギー供給の停止
	4-2 食料の安定供給の停滞
	4-3 上下水道等の長期間にわたる機能停止
	4-4 道外との基幹交通及び地域交通ネットワークの機能停止
5 経済活動の機能維持	5-1 長期的又は広範囲なサプライチェーンの寸断や中枢機能の麻痺等による企業活動等の停滞
	5-2 道内外における物流機能等の大幅な低下
6 二次災害の抑制	6-1 ため池の機能不全等による二次災害の発生
	6-2 農地・森林等の被害による国土の荒廃
7 迅速な復旧・復興等	7-1 災害廃棄物の処理や仮設住宅の整備等の停滞による復旧・復興の大幅な遅れ
	7-2 復旧・復興等を担う人材の絶対的不足や地域コミュニティの崩壊

# 1. 北海道強靱化計画の概要（2）

## ⑤ 脆弱性評価

21のリスクシナリオ「起きてならない最悪の事態」ごとに、関連する現行の施策の進捗状況や課題等を整理し、事態の回避に向けた現行施策の対応力について、分析・評価を実施。

施策の進捗度や達成度の定量的把握のため、現状の数値データを収集し、参考指標として活用。

カテゴリー	評価結果（ポイント）
1 人命の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要な公共施設について、一層効果的・効率的な整備、耐震化や長寿命化に向けた取組が必要。</li> <li>観光施設や文化財などの耐震化の促進が必要。</li> <li>ハザードマップや避難計画の作成、防災訓練などのソフト対策について関係機関が連携し取組の強化が必要。</li> <li>「自助」「共助」の取組を最大限発揮するため地域防災活動や防災教育の推進が必要。</li> </ul>
2 救助・救急活動等の迅速な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所での良好な生活環境の確保、健康に配慮した運営体制の構築、福祉支援の取組が必要。</li> <li>家庭や企業における備蓄の充実や運用改善、民間事業者との支援物資に係る協定の充実が必要。</li> </ul>
3 行政機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害対応拠点施設の耐震化や非常用電源の確保など、業務継続体制の一層の強化が必要。</li> <li>都道府県の区域を越えた行政間の円滑な相互応援の実施のため、応援・受援体制の整備が必要。</li> </ul>
4 ライフラインの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>食料やエネルギーの安定供給に関して、供給力の更なる強化に向けた総合的な取組が必要。特に電力については、国や電気事業者等と連携した電力基盤の強化が必要。</li> <li>広域分散型の本道の特性を踏まえ、災害時に備えた地域間交通ネットワークの強化が必要。</li> </ul>
5 経済活動の機能維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業のニーズに応じた支援の検討など、本社機能や生産拠点、データセンター等誘致の取組の強化が必要。</li> <li>事業継続体制が十分に整備されていない道内企業の体制整備を促進することが必要。</li> <li>救援物資等の円滑な輸送を確保するため、港湾、空港の一層の機能強化を図ることが必要。</li> </ul>
6 二次災害の抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林の計画的な整備・保全や農地・農業水利施設の保全管理、ため池の防災対策の推進が必要。</li> </ul>
7 迅速な復旧・復興等	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮設住宅等の確保や災害廃棄物の処理体制の整備が必要。</li> <li>建設業の行政との連携強化と担い手の育成・確保等に向けた取組が必要。</li> <li>人口減少、高齢化に直面する集落において、地域の実情に即した集落対策が必要。</li> </ul>

上記の評価結果を踏まえると・・・

本道における強靱化施策の充実・強化のためには、次の3点が必要。

- ◆ 近年の地震災害や大雨災害から得られた教訓への適切な対応  
(電力基盤の強化や電源の多重化、ソフトとハードが一体となった治水対策 など)
- ◆ 近年の社会情勢の変化等を踏まえた対応  
(急増する外国人来道者を念頭に置いた情報発信の多言語化 など)
- ◆ 強靱化施策の実効性を高めるための取組  
(市町村の強靱化計画の策定促進や国費予算の安定的な確保)

## ⑥ 施策プログラム

21のリスク回避のため144施策を3分野にグループ化して展開。

【3分野】

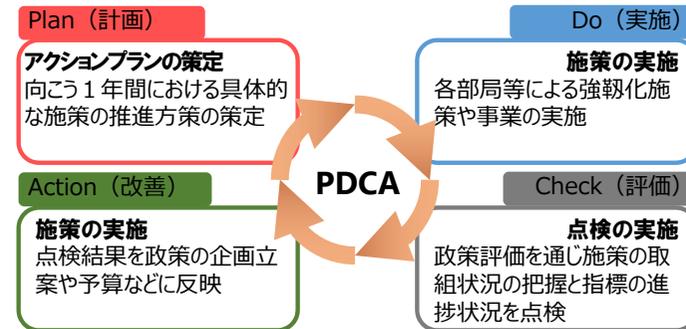
- 自然災害に対する北海道自らの脆弱性を克服するための施策分野
- 国全体の強靱化に貢献するバックアップ機能を発揮するための施策分野
- 北海道の強靱化、全国の強靱化を支える交通ネットワークを整備するための施策分野

## ⑦ 推進期間

長期的な展望を描きつつ、社会情勢の変化に柔軟に対応するため概ね5年。

## ⑧ 計画の着実な推進

向こう1年間における具体的な施策の推進方策「アクションプラン」を毎年度作成するとともに、各施策の取組状況などについて、政策評価を通じて、北海道総合計画と一体的に点検を実施し、計画の着実な推進を図る。



## ⑨ 6地域ごとの施策展開

地域特性などを踏まえ、6地域ごとの施策の展開方向に沿った取組を整理し、地域の実情や優位性、自然災害リスクの特性に応じた効果的な推進を図る。



## ⑩ 推進体制

### ◆ オール北海道による推進体制の構築

知事を本部長とする「北海道強靱化推進本部」を中心に、行政、民間事業者、関係団体等の連携によるオール北海道の推進体制のもと関連施策を着実に推進。

### ◆ 市町村における強靱化の取組の促進

道と市町村との連携強化とともに、各市町村が地域の実情を踏まえた取組が重要。道は、市町村において円滑に計画策定がなされるよう、「国土強靱化地域計画策定マニュアル」の充実や説明会の開催、個別相談の受付など、積極的な支援を実施。

### ◆ 必要な予算の確保に向けた国への働きかけ

「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」後について、長期的な視点で取り組む本格的な強靱化対策が着実に実施できるよう、必要な予算の確保について国に働きかけていく。

## ◎ 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた施策の推進

北海道強靱化の取組については、「北海道SDGs推進ビジョン（2018年12月策定）」に掲げられており、「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に資するもの。

強靱化の取組と関連するSDGsの主な目標



# 2. 北海道強靱化アクションプラン2020のポイント

## 北海道強靱化アクションプラン2020の策定について

「北海道強靱化計画」の推進にあたり、各施策の推進状況等を踏まえて施策プログラム全体を検証し、更なる施策の推進を図るP D C Aサイクルを効果的に機能させるため、2020年度（令和2年度）における具体的な施策の推進方策を示す「北海道強靱化アクションプラン2020」（以下、「アクションプラン2020」という）を策定する。

### ◆策定方針◆

北海道強靱化計画の改定に向けて関連する各施策の進捗状況や課題を分析・評価する脆弱性評価の結果を踏まえ、2020年度に取り組むべき具体的な施策内容を明らかにし、積極的に推進する。

### ◆構成◆

#### □アクションプラン2020のポイント

⇒ 施策の実施による影響の大きさや平時における効用の発揮の観点、各種災害に係る被害想定等の見直し状況等を勘案し、2020年度の重点的な取組を記載

#### □推進方策

⇒ 計画に掲げる「効果的・効率的な施策展開のための体系付け」に基づく3つの施策分野ごとに施策の推進方策を記載

#### □地域における施策展開の主な取組

⇒ 地域特性などを踏まえた、6地域ごとの施策の展開方向に沿った取組を記載

## ■ 防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策の着実な実施

胆振東部地震をはじめとした近年の自然災害の発生を契機に国が創設した「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を活用し、道民の生命や生活、経済を支える重要インフラの耐震化対策や機能強化対策を着実に実施し、強靱な北海道づくりを引き続き推進する。

### 【2020年度の対策箇所】

#### (1) 国土保全基盤（河川、砂防、海岸、治山）

- ▶ 河川 樹木伐採・掘削、河道の掘削等 92箇所
- ▶ 砂防 土砂流木対策（砂防堰堤工等） 24箇所
- ▶ 海岸 堤防高確保対策や消波施設の整備等 4箇所
- ▶ 治山 治山施設等の整備 26箇所

#### (2) 交通基盤（道路）

- ▶ 道路 道路法面对策、除雪車の増強による体制強化対策等 11箇所

#### (3) 農林水産基盤（ため池・水利施設等、漁港）

- ▶ ため池 防災重点ため池の改修等 3地区
- ▶ 水利施設等 耐震化対策等 42地区
- ▶ 漁港 防波堤等の強化 5漁港

#### (4) 環境基盤（造林、林道）

- ▶ 造林 789地区
- ▶ 林道の改良整備 3路線



河川の掘削、樹木伐採（前・後）

「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」関連予算307億円

⇒ 2020年度「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」全ての対策箇所を完了

## ■ 国土強靱化施策の実効性を高める取組の推進 ～市町村強靱化地域計画の策定促進

2019年に作成した市町村の計画策定に向けたマニュアルの充実や説明会の開催、市町村への個別訪問を行うとともに、道のホームページや広報紙「レジリエンスHOKKAIDOニュース」を活用した積極的な情報提供に努めるなど、市町村の計画策定が促進されるよう取組を推進する。

### 《目標》

国土強靱化地域計画が策定されている市町村の割合  
7.2% (2018) ⇒ 100% (2020)

## ■ 近年の自然災害からの教訓を踏まえたソフト対策の充実・強化

2018年の胆振東部地震をはじめ、2019年の台風19号による東日本を中心とした甚大な大雨災害などを踏まえ、ソフト対策の充実・強化に取り組む。

### <主な取組>

- ▶ 住民の迅速かつ円滑な避難に資する水害対応タイムラインの作成を支援

#### 《目標》

道管理の洪水予報河川及び水位周知河川（137河川）における水害対応タイムラインの作成割合  
52.2% (2018) ⇒ 100% (2020)

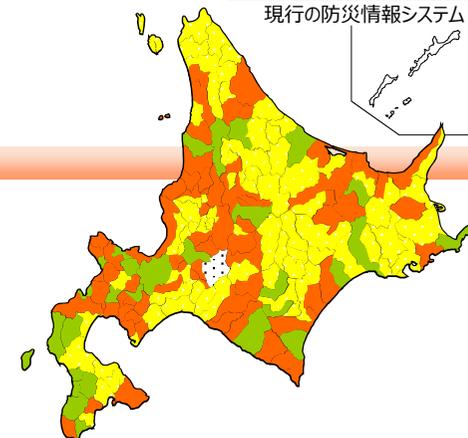
- ▶ 災害現場からの情報収集機能の向上などを図るため、新たな防災情報システムを整備
- ▶ 災害時の外国人居住者への多言語支援を充実
- ▶ 災害時にも対応可能な地域におけるエネルギーの地産地消の取組を支援



標津川水害対応タイムライン検討会に向けた準備会（2019.12）



現行の防災情報システム



道内市町村の国土強靱化地域計画策定状況  
(2020年3月1日時点) ※

	市町村数
策定済み	28
策定中	69
策定予定	81
検討中	1

※ 総合政策部調べ

# 3. 推進方策

## 1 自然災害に対する北海道自らの脆弱性を克服

### 1) 住宅・建築物等の耐震化、老朽化対策の推進

#### (住宅・建築物等の耐震化)

- 戸建て住宅の無料耐震診断や耐震改修に対する支援を実施するとともに、市町村に対し耐震改修に係る補助制度の創設や制度拡充の働きかけを行うほか、耐震診断が義務付けられたホテルや旅館等の民間の大規模建築物に対し耐震診断や改修等に係る支援を実施するなど「北海道耐震改修促進計画」に基づく施策を推進し、住宅・建築物の耐震化を促進する。【建設部】
- 中小企業者等が行う観光施設等の耐震改修に対し「防災・減災貸付（耐震改修）」による金融支援のほか、重要文化財建造物の所有者に対する耐震化に係る国補助事業の周知などを実施し、観光施設・文化財等の耐震化を促進する。また、国の重要文化財に指定されている赤れんが庁舎の改修に向け耐震設計等を実施する。【総務部・経済部・教育庁】
- 教育、医療、社会福祉施設、公園など、多くの住民等が利用する公共施設等の耐震化に係る支援を行うとともに、特に学校施設については、私立学校の耐震化への支援のほか、引き続き市町村への働きかけを行い、公立小中学校の耐震化などの早期完了を促進する。また、国に対し耐震化に係る財政支援措置の拡充などを強く提案・要望するなどし、各施設管理者による耐震化を促進する。【総務部・環境生活部・保健福祉部・建設部・教育庁】



赤れんが庁舎の耐震化  
（札幌市）

#### (建築物等の老朽化対策)

- 維持管理・更新に係るトータルコストの縮減・平準化を図るため、個別施設ごとの長寿命化計画に基づき、公共施設等の維持管理・更新を計画的に行うほか、点検・診断や維持管理・更新にも活用可能な交付金制度の創設や要件の緩和などについて、国に要望を実施する。【総合政策部・建設部】
- 市町村が市街地再開発事業等の支援制度を活用する際、助言等を行うなど円滑な事業実施を図り、老朽建築物の建替等を促進するとともに、「空き家等対策に関する取組方針」に基づき北海道空き家情報バンクの運営・周知や市町村の取組に対する支援などを行う。【建設部】



道路設備点検

#### (地盤等の情報共有)

- 北海道立総合研究機構と連携し、地盤ボーリング資料に基づき地盤の3次元構造解析、液状化実績との比較を行い、液状化リスク評価マップの作成を推進する。【総務部】
- 市町村が行う大規模盛土造成地に関する変動予測調査等への助言を行うなど、宅地造成に伴う災害の発生防止の取組を促進する。【建設部】

#### (地下施設の防災対策)

- 道管理河川の洪水浸水想定区域図を市町村に提供するなど、関係機関が連携した防災対策等を促進するほか、避難確保計画及び浸水防止計画が未作成の地下施設所有者等に対して、必要な指示や資料提供を行うなど、計画の作成を促進する。【総務部・建設部】

#### (水道施設等の防災対策)

- 市町村等に対する耐震化計画策定に関する助言等や、必要な予算確保に向けた国への提案・要望を行うなど、水道施設の耐震化や老朽化対策を促進するほか、工業用水道施設においても、老朽施設（配水管・ダムゲート等）の更新及び耐震化の実施について、受水企業等の理解促進を図りながら、計画的な取組を推進する。【環境生活部・企業局】
- 市町村等の担当者に対する災害時の対応等に関する研修会の実施や、水道関係団体が主催する災害訓練への参加等を行い、応急給水体制の整備を促進するとともに、災害により水道施設が被災した場合に備え、関係団体と締結した覚書に基づき、水道施設の迅速かつ円滑な復旧に向けた支援等を実施する。【環境生活部】



上水道配水管の漏水

#### (下水道施設等の防災対策)

- 国が策定した新たな下水道BCPマニュアルを踏まえた各管理者のBCPの見直しを促進するため、各種会議等を通じ見直しに向けたマニュアルの周知や助言を行うとともに、長寿命化計画に基づく施設の改築更新や耐震化を推進する。また、農業・漁業集落排水施設の老朽化等に対する機能診断が未了の市町村に対し、引き続き、情報の提供や長寿命化計画の策定について働きかけを行い、計画的な施設の整備を促進する。【農政部・水産林務部・建設部】
- 国の循環型社会形成推進交付金を活用して、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を促進する。【環境生活部】



マンホールの突出  
（2018.9 安平町）

#### (農地・農業水利施設の保全管理)

- 関係団体等と連携し、農地や水路など地域資源の保全管理に係る地域の共同活動を支援するとともに、支援制度の普及推進に向けた地域説明会を開催するなど、農業・農村の多面的機能を維持・発揮するための取組を推進する。【農政部】



水路の草刈り

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
住宅の耐震化率	87% (2015)	95% (2020)	87% (2015)	91.5%	住宅の耐震化率
多数の者が利用する建築物の耐震化率	93% (2015)	95% (2020)	93% (2015)	97.8%	耐震改修促進法第14条第1号に定める多数利用建築物の耐震化率
社会福祉施設の耐震化率	86% (2016)	95% (2020)	86% (2016)	90.5%	2階建て又は延べ面積200㎡以上の社会福祉施設の全棟数に占める耐震済みの棟数の割合
公立小中学校の耐震化率	96% (2019)	100% (2022)	96% (2019)	96.0%	公立小・中学校における耐震化率
公立小中学校の屋内運動場等の吊り天井等の落下防止対策実施率	99% (2019)	100% (2022)	99% (2019)	99.0%	公立小中学校における屋内運動場等の吊り天井の落下防止対策実施率
個別施設ごとの長寿命化計画策定率	72.2% (2018)	100% (2020)	72.2% (2018)	72.2%	道が管理または財政負担を負うことが見込まれる公共施設等（交通、上下水道等、公園等、治水、農林水産基盤、建物等）における個別施設ごとの長寿命化計画策定率
上水道の基幹管路の耐震適合率	44% (2018)	50% (2022)	44% (2018)	88.0%	主要な管路における耐震適合性のある管路の割合
管路耐震化率（北海道企業局工業用水）	59% (2018)	69% (2029)	59% (2018)	85.5%	企業局工水の管路総延長に対する耐震性のある材質と継手により構成された管路延長の割合
国の策定マニュアルの改定に対応した下水道BCPの策定率	0% (2019)	100% (2020)	0% (2019)	0.0%	下水道BCPをブラッシュアップしている自治体の割合
地震対策上重要な下水管渠の地震対策実施率	43% (2018)	45% (2021)	43% (2018)	95.6%	地震対策上重要な下水管渠のうち、耐震化が行われている割合
下水道施設の長寿命化計画策定率	89% (2018)	100% (2020)	89% (2018)	89.0%	下水道を管理している自治体のうち、長寿命化計画を策定している自治体の割合
農業集落排水施設の機能診断実施率	86% (2018)	100% (2020)	86% (2018)	86.0%	農業集落排水施設の劣化状況等を把握するために実施する機能診断の実施率
浄化槽のうち合併処理浄化槽の設置率	75% (2017)	76% (2022)	75% (2017)	98.7%	市町村等が設置した浄化槽のうち合併処理浄化槽の設置率

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
高等学校施設整備費（グラウンド整備費） 【教育庁】	道立学校のグラウンド、暗渠等の排水設備、擁壁改修の実施	※ 83,100	○
特別支援学校施設整備費（大規模改造） 【教育庁】	教育環境の改善、建物の耐久性向上及び建物の損耗・機能低下に対する復旧措置	237,432	○
社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業：提案事業） 【建設部】	「空き家等対策に関する取組方針」に基づき、北海道空き家情報バンクの運営・周知や市町村の取組に対する支援	12,500	
水道施設管理指導費（水道施設維持管理指導費） 【環境生活部】	水道施設及び飲料水供給施設に関する指導及び水道の目指すべき将来像や実現方策等を示す「北海道水道ビジョン」の推進	1,309	
生活基盤施設耐震化等補助金事業（水道対策費） 【環境生活部】	市町村等が行う水道施設の耐震化などの事業に対する支援	2,109,108	○
室蘭地区工業用水道改修事業、苫小牧地区工業用水道改修事業 【企業局】	工業用水道施設（ダムゲート、配水管等）における老朽更新及び耐震化（（室蘭地区（第四期）、苫小牧地区（第二期））の実施	557,221	○
水産基盤整備事業（漁港環境整備事業、漁業集落環境整備事業） 【水産林務部】	漁業集落における排水施設の長寿命化計画等に基づく老朽化対策および防災関連施設の整備	86,000	
防災・安全交付金（下水道事業） 【建設部】	施設の耐震化、長寿命化計画に基づく施設の改築更新の実施	2,161,000	
多面的機能支払事業 【農政部】	農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、農地や水路など、地域資源の適切な保全管理に取り組み地域の共同活動の支援	9,195,189	

※：2019年度国補正の2020年度執行分を含む

## 2) 火山噴火・土砂災害に備えた警戒避難体制の整備

### （警戒避難体制の整備等）

○ 各火山防災協議会間の情報共有を図り、関係機関の連携の下、火山単位の統一的な避難計画の検討や、観測機器の整備及び緊急対策用資材の事前準備など、警戒避難体制の整備及び観測体制の強化を図る。【総務部・建設部】

○ 土砂災害による被害の低減に向け、基礎調査の結果を基に土砂災害警戒区域等の指定やハザードマップの作成を支援するとともに、避難の実効性を高めるための情報発信の強化を進める。【建設部】

### （砂防設備等の整備、老朽化対策）

○ 常時観測火山において「火山噴火緊急減災対策砂防計画」の策定を推進するとともに、関係機関の連携の下、同計画に基づく砂防対策を計画的に推進する。【建設部】

○ 近年の土砂災害発生状況や保全対象などを勘案し、砂防設備や急傾斜地崩壊防止施設、地すべり防止施設等の整備を推進するとともに、個別施設の長寿命化計画等に基づく老朽化対策や施設の維持管理を適切に実施する。【農政部・建設部】

○ 山地災害発生箇所等の早期復旧や「山地災害危険地区における事前防災・減災重点対策中期計画」に基づく重点的な予防対策、総合的な流木対策などハード対策と、山地災害危険地区の周知などソフト対策を組み合わせた総合的な治山対策を推進するとともに、治山施設の点検・診断に基づく個別施設ごとの長寿命化計画の策定を実施する。【水産林務部】

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
防災・安全交付金、社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業）、地域居住機能再生推進事業 【建設部】	老朽化した公営住宅ストックの計画的な建て替えや改善、高齢化の著しい地域における大規模団地等の地域居住機能を再生する建て替え等を実施	6,231,000	
防災・安全交付金（住環境整備事業） 【建設部】	民間大規模建築物や防災拠点建築物の所有者が行う耐震改修工事を支援する市町村に対し、耐震改修に係る経費の一部を補助	800,000	
中小企業総合振興資金貸付金 【経済部】	中小企業者の経営基盤の強化等を図り本道経済の発展に資するため、金融機関に原資を預託し、中小企業者に対する融資を促進	88,387,000	
庁舎等維持営繕費（赤れんが庁舎改修事業費） 【総務部】	国の重要文化財に指定されている赤れんが庁舎の保存・修復に向けた改修工事	54,007	
私立学校施設耐震化支援事業費補助金 【総務部】	学校法人等が行う私立学校施設の耐震化に係る経費の一部を補助	※ 194,010	
社会福祉施設整備事業費（社会福祉施設整備） 【保健福祉部】	社会福祉施設等の整備（創設、増築、増改築、大規模修繕、改築等）に対する支援	※ 5,811,124	○

## （ため池の防災対策）

- 北海道ため池対策実施計画に基づき、防災重点ため池の耐震性、豪雨に関する詳細調査を実施するとともに、国の支援制度を積極的に活用し、ハザードマップの作成を促進する。【農政部】
- 市町村と連携し農業用ため池の適正な管理と保全に努める。【農政部】



宝池ダム（ため池）（岩見沢市）

## （森林の整備・保全）

- 森林計画制度に基づく森林づくりを推進するため、適切な計画を策定するとともに、森林整備や林道等の路網整備を推進する。また、道有林基本計画に基づいた道有林の整備・管理を着実に推進する。【水産林務部】
- エゾシカ管理計画（第5期）の目標達成のため、道による捕獲事業の実施、エゾシカジビエの利用拡大に向けた狩猟捕獲に対する支援などを行うとともに、道有林内の林道除雪など捕獲環境の整備を行う。【環境生活部・水産林務部】



林道の整備（奈井江町）

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
常時観測火山（9火山）の統一的な避難計画の作成状況	7火山（2019）	9火山（2024）	7火山（2019）	77.8%	統一的な避難計画を作成した火山防災協議会の割合
土砂災害警戒区域の指定率	53%（2018）	100%（2021）	53%（2018）	52.5%	土砂災害警戒区域の指定数を基礎調査が完了し土砂災害警戒区域の指定が必要な箇所数で除した割合
土砂災害から保全される人家戸数（道施工）	約2.5万戸（2018）	約2.7万戸（2022）	約2.5万戸（2018）	91.5%	砂防設備や急傾斜地崩壊防止施設等の整備により保全される人家戸数
周辺の森林の山地災害防止機能等が適切に発揮される集落の数	4,345集落（2018）	4,701集落（2026）	4,345集落（2018）	92.4%	治山事業の実施によって森林の山地災害防止機能等が適切に発揮され、その森林の機能により保全される集落数
防災重点ため池の耐震性、豪雨に関する詳細調査の実施割合	0%（2019）	100%（2024）	0%（2019）	0.0%	大規模地震や大雨等を起因としたため池の決壊などによる2次被害を未然に防止するために行う、ため池の耐震性、豪雨に関する詳細調査の実施割合
防災重点ため池のハザードマップの策定割合	51%（2018）	100%（2024）	51%（2018）	51.0%	決壊すると多大な影響を与える防災重点ため池の市町村によるハザードマップの策定割合
育成単層林・育成複層林・天然生林別森林面積（うち育成複層林の面積）	753千ha（2017）	840千ha（2036）	753千ha（2017）	89.6%	発揮を期待する機能に応じて、適切な森林の整備や保全の実施により誘導された森林の面積
森林の蓄積（二酸化炭素貯蔵量）	801百万m <sup>3</sup> （2017）	835百万m <sup>3</sup> （2026）	801百万m <sup>3</sup> （2017）	95.9%	森林が吸収固定している二酸化炭素の量
道有林における育成複層林など多様な森林に誘導する人工林の面積	40.9千ha（2018）	51.0千ha（2026）	40.9千ha（2018）	80.2%	道有林の人工林のうち、複層林施業や単層林施業など多様な方法により森林整備をした面積

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 （千円）	3か年 緊急対策
総合防災体制整備費（火山・地震防災対策強化推進費） 【総務部】	火山での観測データの収集・研究分析及び関係機関との連携を図り、観測・予知体制の強化を推進	3,930	
防災・安全交付金（砂防事業） 【建設部】	砂防関係施設整備等の土砂災害対策、火山噴火被害を防止・軽減するための火山噴火緊急減災対策	※ 11,999,400	○
特定土砂災害対策推進事業 【建設部】	砂防施設整備等の土砂災害対策	※ 3,647,400	
治山事業（治山事業） 【水産林務部】	山地災害防止のための治山施設整備	※ 11,769,660	○
森林整備事業（林道事業） 【水産林務部】	森林整備を実施する上で重要な基盤となる林道等の路網整備	※ 2,748,932	○
森林整備事業（造林事業） 【水産林務部】	森林の多面的機能の持続的な発揮を図るため、造林や間伐等の森林整備	※ 12,121,359	○
農業農村整備事業（農村地域防災減災事業） 【農政部】	防災重点ため池の耐震性、豪雨に関する詳細調査		農業農村整備事業の内数 ○
未来につなぐ森づくり推進事業費補助金 【水産林務部】	伐採後の確実な植林等に対する支援	682,000	
エゾシカ対策推進費 【環境生活部】	北海道エゾシカ管理計画（第5期）に基づき、個体数調査や対策協議会などの実施により、エゾシカ個体数の適正管理、被害の低減を促進	11,373	
エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業費 【環境生活部】	エゾシカ管理計画（第5期）の捕獲目標達成のため、関係機関と連携し、全道での捕獲事業等の実施	79,712	
道有林エゾシカ緊急対策事業費 【水産林務部】	道有林における林道除雪による捕獲環境の整備	23,208	

※：2019年度国補正の2020年度執行分を含む

## 3）津波避難体制、海岸保全施設の整備

### （津波避難体制の整備）

- 日本海沿岸の津波浸水想定公表を踏まえ、津波災害警戒区域の指定を推進する。また、国が太平洋の津波断層モデルを公表したのちに、太平洋沿岸・オホーツク海沿岸の津波浸水想定検討を行い、地震被害想定を加えた地震防災対策に関する減災目標（地域目標）の検討に着手する。【総務部・建設部】
- 道防災会議地震専門委員会減災ワーキンググループ委員を地震・津波対策に関する専門家として派遣する「専門家派遣事業」を継続して実施し、市町村における津波ハザードマップ及び津波避難計画の改訂や策定促進を図る。【総務部】
- 避難誘導に必要な標識や表示板の設置について、市町村に助言・支援を行い整備を促進する。また、「津波防災の日」にあわせ、地震津波等のパネルや津波実験装置・家庭用防災グッズ等を展示したパネル展の開催により道民の防災意識の醸成を図る。【総務部】

### （海岸保全施設等の整備）

- 高潮、津波等による浸水被害想定や老朽化・耐震調査などを踏まえ、高潮浸水想定区域図作成と区域指定を進めるとともに、海岸堤防などの施設の計画的な整備や個別施設ごとの長寿命化計画に基づく老朽化施設の補修・更新など適切な施設の維持管理に向けた取組を実施する。【農政部・水産林務部・建設部】
- 「北海道海岸防災林整備基本方針」に基づき、津波の減衰効果の高い海岸防災林など、津波災害に強い海岸保全施設の整備を計画的に実施する。【水産林務部】



海岸防災林造成  
(むかわ町)

### （河川改修等の治水対策）

- 近年の大雨災害等を勘案し、浸水被害を受けた河川や、人口が集中する都市部を流れる河川の整備、及び早期完成に向けて放水路・ダム・遊水池の整備を重点的に推進する。【建設部】
- 河川管理施設については、北海道樋門長寿命化計画など各施設の長寿命化計画に基づき補修・更新等を行うほか、河道内樹木の伐採や堆積土砂の掘削を計画的に実施するなど、適切な維持管理により必要な治水機能を確保する。【建設部】
- 流域の特性や課題に応じ、ソフト・ハード対策の両面から、既存ダムの長寿命化、効率的かつ高度なダム機能の維持など、既設ダムを有効活用するダム再生の取組を推進する。【建設部】
- 被災による長期停電時においても電力を確保し、適切なダム管理を行うため、道管理の既存ダムでの管理用小水力発電について、検討を行う。【建設部】
- 下水道浸水被害軽減のため、近年の内水による浸水被害状況等を勘案し、雨水管渠などの計画的な整備を推進する。【建設部】
- 中小河川等における水防災意識社会の再構築に向け、国、道、市町村、気象台などの関係機関で構成する各地域の「大規模氾濫減災協議会」において、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進するための仕組みを検討する。【建設部】



指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
津波ハザードマップを作成した市町村の割合	98.8% (2017)	100% (2024)	98.8% (2017)	98.8%	津波ハザードマップを作成した市町村の割合
津波避難計画を作成した市町村の割合	98.8% (2018)	100% (2024)	98.8% (2018)	98.8%	市町村における津波避難計画の策定割合

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
総合防災体制整備費（防災会議運営費） 【総務部】	北海道防災会議及び北海道石油コンビナート等防災本部の開催	5,836	○
農業農村整備事業（海岸保全施設整備事業） 【農政部】	高波等から農地を守るための海岸保全施設の整備	農業農村整備事業の内数	○
漁港海岸保全事業 【水産林務部】	高波等から海岸背後の生命及び財産を守るための海岸保全施設の整備	※ 1,083,143	○
防災・安全交付金（海岸事業） 【建設部】	海岸保全施設の整備	※ 4,022,000	○
治山事業（防災林造成事業） 【水産林務部】	飛砂、潮風、高潮、津波による被害の防止・軽減	※ 609,000	○

※：2019年度国補正の2020年度執行分を含む

## 4) ソフト・ハードが一体となった治水対策

### （洪水・内水ハザードマップの作成）

- 道管理河川の洪水浸水想定区域図について、新たに指定する水位周知河川について作成するとともに河川整備の進捗等必要に応じた見直しを行い市町村へ提供するとともに、市町村訪問や（総合）振興局と市町村との防災合同研修を活用し、課題把握や助言を行い、地域の状況に応じた洪水ハザードマップの作成及びハザードマップを活用した防災訓練等の実施を促進する。また、道が管理する洪水予報河川（1河川）及び水位周知河川（136河川）に関係する市町村を対象に「避難勧告着目型タイムライン」の作成を支援する。【総務部・建設部】
- 内水ハザードマップの作成に取り組む市町村に対して、各種会議などを通じて支援を行うとともに、ハザードマップに基づく防災訓練を関係機関と連携して取り組むよう助言等を行う。【総務部・建設部】



平成30年7月豪雨  
(旭川市)

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
洪水予報河川及び水位周知河川における水害対応タイムラインの作成割合	52.2% (2018)	100% (2020)	52.2% (2018)	52.2%	「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画の取組に係る洪水予報河川及び水位周知河川における水害対応タイムラインの作成割合
最大クラスの洪水に対応したハザードマップを作成した市町村の割合	48.9% (2018)	100% (2024)	48.9% (2018)	48.9%	洪水ハザードマップを作成した市町村の割合
人口・資産集積地区等における河川整備計画目標相当の洪水に対する河川の整備率（全国の国管理河川）	72.2% (2017)	76% (2020)	72.2% (2017)	95.0%	人口・資産集積地区等における河川整備計画目標相当の洪水に対する河川の整備率（全国の国管理河川）
管理用小水力発電を導入した道管理ダム	6基 (2019)	7基 (2025)	6基 (2019)	85.7%	管理用小水力発電を導入した道管理ダムの基数

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
特別対策事業費（河川） 【建設部】	治水対策及び安全で快適な水辺空間の整備	6,064,200	
防災・安全交付金（河川事業） 【建設部】	河道の掘削、築堤、放水路・遊水池の整備等の治水対策	※ 46,309,764	○

※：2019年度国補正の2020年度執行分を含む

## 5) 暴風雪・豪雪対策の推進

### (暴風雪時における道路管理体制の強化)

- 暴風雪による特殊通行規制について住民への事前周知措置を実施するほか、優先確保ルートの設定・運用の試行を実施し、暴風雪時における道路管理体制の強化を図る。【建設部】
- 雪崩や地吹雪などの道路防災総点検の結果を踏まえ、路線の位置付けなどから早期に対策が必要な箇所の対策工を重点的に実施するほか、その他の箇所についても現地の道路環境・状況を勘案し、緊急性の高い箇所の対策工を実施する。【建設部】



運搬排雪作業（沼田町）

### (除雪体制の確保)

- 冬期間の安全な道路交通を維持するため、関係機関と連携を図り、「公共土木施設の維持管理基本方針」に定める維持管理水準に基づき、適切な除排雪や凍結防止剤等の散布などを実施する。【建設部】
- 適切な除排雪の実施に必要な除雪機械の計画的な更新・増強を進める。【建設部】

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
道路防災総点検における防雪に関する道路の要対策箇所の対策率（道道）	78% (2018)	90% (2022)	78% (2018)	86.7%	暴風雪時における地吹雪危険箇所等の対策

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
防災・安全交付金（道路事業） 【建設部】	道道の新設、改築、修繕等に関する事業のうち防災・安全対策	※ 1,564,000	○
社会資本整備総合交付金（道路事業：補助道路除雪事業費） 【建設部】	冬季道路交通の確保を図るための除雪排雪等	5,806,243	
防災・安全交付金（道路事業：除雪機械） 【建設部】	除排雪の円滑な実施を図るための除排雪機械・凍結防止剤散布車の更新・増強	1,400,000	○

※：2019年度国補正の2020年度執行分を含む

## 6) 積雪寒冷を想定した避難所運営・訓練、要援護者への配慮

### (避難場所等の指定・整備・普及啓発)

- 指定緊急避難場所等の指定状況の実態把握に努めるとともに、想定される災害に応じた施設の選定や整備の状況、収容人数、安全性、管理の状況など、その適切性を確保するため、市町村に対して適時適切に助言を行い、必要な見直し、確保の取組を支援する。【総務部】
- 福祉避難所の意義と目的、平時及び災害時における取組等について、市町村、道民に周知を図るとともに、福祉関係団体への協力依頼等により市町村の福祉避難所の指定を促進する。【保健福祉部】

- 災害時の避難場所として活用される都市公園等を市町村が国補助事業等を活用して整備等を行う際、助言等の支援を行うなど、計画的な施設整備を促進する。【建設部】

### (避難所等の生活環境の改善、健康への配慮)

- 避難所の環境改善に向けて、円滑かつ統一的な運用ができるようマニュアルの見直しを行うとともに、市町村の実施する避難所運営訓練において、必要な支援を行う。また、避難所における適温食の提供に向け、訓練の実施等の取組を推進する。【総務部・保健福祉部】



避難場所としても利用される東光スポーツ公園（旭川市）

### (保健所機能の充実)

- 国等が実施する健康危機管理に関する研修に、医師や保健師等の保健所職員を派遣するとともに、保健所管轄別研修の一部として、災害時における保健活動のマネジメントを適切に行うために必要な基礎的な知識と技術を学び、災害対応における各地域の課題の明確化と対応策を検討する。【保健福祉部】
- 災害時における感染症の発生や拡大を防ぐための消毒、駆除等を速やかに行う体制を整備するとともに、定期的な予防接種の実施体制を継続するなど、災害時の防疫対策を推進する。【保健福祉部】
- 平時における感染症対策として、定期予防接種を対象者が適切に受けられる体制を維持するほか、国への提案・要望を通じて、空港・港湾の検疫体制の充実を図る。【総合政策部・保健福祉部】

### (災害時における福祉的支援)

- 災害時に福祉避難所などに人材を派遣する「北海道災害派遣ケアチーム」の制度周知を進めるとともに、必要に応じ、関係団体の参加について協力要請を行う。【保健福祉部】
- 国のガイドラインに基づき、災害福祉支援ネットワーク会議を開催し、平時から関係機関との役割分担や活動内容等を定めるほか、関係者の研修・訓練を実施するなどして、災害発生時の支援体制の構築を図る。【保健福祉部】
- 「災害時における社会福祉施設等の相互支援協定」に基づき、提供できる支援の内容などについて協定締結団体との情報共有を図るなど人的・物的支援体制の継続と実施体制の充実を図る。【保健福祉部】

### (積雪寒冷を想定した避難所等の対策)

- 市町村が行う備蓄品の整備に対する支援などを行い、停電時でも利用できる安全な暖房器具や発電機、携帯トイレなどの備蓄を促進し、避難所における冬季防寒対策を推進する。【総務部】
- 厳冬期訓練等を通じ、真冬の寒さ対策等に必要な備蓄の検証及び避難所環境の整備に対応できる防災力の強化を図る。【総務部】



厳冬期避難所展開・宿泊演習（2020.1 北見市）

- 応急仮設住宅の建設に係る協定締結団体と連携し、本道の気候等に対応した標準仕様の検討を進める。【建設部】

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
福祉避難所の確保状況	99% (2019)	100% (2020)	99% (2019)	99.0%	福祉避難所を確保している市町村数
市町村における非常用電源及びストーブの備蓄状況	150市町村 (2015)	179市町村 (2024)	150市町村 (2015)	83.8%	非常用電源及びストーブを備蓄している市町村の割合
予防接種法に基づく予防接種麻しん・風しんワクチンの接種率	95.3% (2018)	95%以上 (毎年)	95.3% (2018)	100.3%	麻しん・風しんのワクチン接種対象者のうち接種した者の割合

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
地域づくり総合交付金（地域づくり推進事業） 【総合政策部】	市町村が設置する避難所等の資機材等整備等に対する助成	4,300,000	
災害福祉広域支援ネットワーク構築事業費 【保健福祉部】	災害時において、避難生活中における生活機能の低下等の防止等を図るため、官民協働による「災害福祉支援ネットワーク」を構築し、「災害派遣福祉チーム」による一般避難所における災害時要配慮者に対する福祉支援を実施	1,500	
社会福祉施設整備事業費（老人福祉施設） 【保健福祉部】	老人福祉施設等の整備（創設、増築、増改築、大規模修繕、改築等）に対する支援	2,925,595	○

## 7) 関係機関の情報共有・住民や外国人を含む観光客への情報伝達体制の強化

### （関係機関の情報共有化）

- 北海道防災情報システムの情報収集等の機能向上を図るとともに、各種訓練・会議等を通じて、国、道、市町村、民間等との情報連携体制の強化を図る。また、災害発生現場や救援・救助活動を行う場所のほか、物資輸送や避難に係る経路など、災害応急対策に必要な災害情報を記した防災関係機関が共有できる防災共通地図を関係機関と連携・協力し整備する。【総務部・建設部】
- 災害対策に必要な監視・観測機器の情報を関係機関がリアルタイムで共有する防災情報共有システムについて、各機関が保有するカメラ映像等を活用した現地の状況把握など、一層の効果的な運用に向け、市町村の参画を促進するとともに、老朽機器の更新や未整備箇所への観測機器の計画的な整備を推進する。【総務部・建設部】
- 北海道総合行政情報ネットワークの老朽化に対応するための改修を行うほか、災害時における通信回線を確保するため、市町村の衛星携帯電話の整備状況の把握に努めるとともに、国に対し、財政支援について提案・要望するなど、ネットワーク環境の構築に向けた取組を実施する。【総務部・総合政策部】



危機管理型水位計  
(洪水時に特化した低コスト水位計)

### （住民等への情報伝達体制の強化）

- 「避難勧告等に関するガイドライン」の改定を踏まえ「避難勧告等の発令基準マニュアルの作成例」を修正し市町村へ提供するとともに、避難勧告等の発令基準の策定状況や課題把握に努め、市町村訪問等により地域ごとの避難対策の課題を把握し、策定に向けた助言を行うなど、発令基準の策定を促進する。【総務部】
- Wi-Fi環境の整備に関する国の支援制度を市町村等に対し、周知するほか、Lアラートの活用などにより情報伝達体制の強化を図るとともに、住民等への災害情報伝達手段の多重化への取組を促進する。【総務部・総合政策部】
- 民間テレビ・ラジオ事業者等による予備放送設備、予備電源の整備や中継局の移転整備を促進するとともに、災害情報の提供に有効なラジオの難聴対策を推進する。【総合政策部】
- 国民保護法に基づく安否情報システムの全国一斉操作訓練を通じ、参加団体の理解促進・操作習熟を図る。【総務部】
- 主要幹線道路又は主要幹線道路と災害応急対策の拠点とを連絡する道路等において、信号機電源付加装置の新設・更新、光ビーコン・交通情報板の更新を優先するなど、効果的な整備を行う。【警察本部】
- 被災者等への正確な情報を伝達するため、災害対策本部指揮室において報道専門官による報道発表を行うほか、道庁公式ツイッターを活用した情報発信を行う。また、防災訓練の実施などを通じて関係機関の連携強化を図り、迅速かつ正確な情報収集や情報発信の実効性の確保を図る。【総務部】



交通情報板の更新

### （外国人、観光客、高齢者等の要配慮者対策）

- 災害時に要援護者となる外国人への多言語支援を迅速かつ適切に行うため、災害時支援ニーズの調査や対応マニュアルの作成、民間と連携した支援体制の検討を進めるほか、外国人を含む観光客に対する災害情報の伝達体制を強化するため、災害時にはSNS等を活用した多言語による迅速な情報発信や帰宅・帰国等を支援する「観光客緊急サポートステーション」による相談対応を実施するとともに、平時には、観光客緊急サポートステーションの開設に関する訓練の実施など、観光客の安全確保に向けた取組を推進する。【経済部】
- 災害時も含め外国人観光客等の移動の利便性を確保するため、道道における道路案内板の英語表記を推進するとともに、地域の観光団体等に対する支援を通じ道路案内標識の外国語併記やピクトグラム表記を推進し、観光地における案内表示等の多言語化を促進する。【経済部・建設部】
- 避難行動要支援者名簿の作成や名簿を活用した個別計画の策定を促進するため、「災害時における高齢者・障がい者等の支援対策の手引き」の周知や市町村への個別訪問などを通じ、市町村における避難行動要支援者対策を支援する。【保健福祉部】

### （帰宅困難者対策の推進）

- 災害時における帰宅困難者対策として、ホームページや防災情報システム等による気象などに関する情報発信を行うとともに、民間企業との協定に基づく、一時滞在場所の提供等を実施する。また、平時から、暴風雪への備えや避難行動等を解説したリーフレットなどにより、住民への防災意識の啓発を実施する。【総務部】

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
避難勧告等に係る具体的な発令基準の策定状況（水害）	90.8% (2018)	100% (2024)	90.8% (2018)	90.8%	市町村における避難勧告等に係る具体的な発令基準の策定割合
避難勧告等に係る具体的な発令基準の策定状況（土砂災害）	98.3% (2018)	100% (2024)	98.3% (2018)	98.3%	市町村における避難勧告等に係る具体的な発令基準の策定割合
避難勧告等に係る具体的な発令基準の策定状況（高潮災害）	72.1% (2018)	100% (2024)	72.1% (2018)	72.1%	市町村における避難勧告等に係る具体的な発令基準の策定割合
避難勧告等に係る具体的な発令基準の策定状況（津波災害）	94.0% (2018)	100% (2024)	94.0% (2018)	94.0%	市町村における避難勧告等に係る具体的な発令基準の策定割合
防災等に資する公衆無線LANの整備率	85% (2018)	100% (2024)	85% (2018)	85.0%	防災に資するWi-Fi環境の整備計画（総務省）と整備済み数の割合

2020年度 主な道予算事業	概 要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
総合防災体制整備費（防災訓練費） 【総務部】	例年実施の総合防災訓練等とともに、北海道石油コンビナート等総合防災訓練の実施	1,778	○
総合防災体制整備費（防災情報システム整備費） 【総務部】	住民などに対する気象警報、災害情報等の提供	532,932	
総合防災体制整備費（災害対応人材強化費） 【総務部】	防災訓練や防災研修を通じ、道職員及び市町村職員の災害対応能力の向上を図るとともに、市町村及び自衛隊との連携を強化	5,172	
総合防災体制整備費（「まさか」に備える危機対策総合推進費） 【総務部】	広域災害を想定した複数振興局での訓練や防災教育コンテンツを活用した「1日防災学校」を全道各地でモデル事業として実施	6,429	
防災・安全交付金（砂防事業） 【建設部】	火山噴火被害を防止・軽減するための火山噴火緊急減災対策	※ 887,000	○
防災・安全交付金（河川事業） 【建設部】	河川情報関連機器の整備や機能向上を伴う更新等	32,886,904	○
交通安全施設整備事業（うち強靱化関連経費） 【警察本部】	光ビーコン、交通情報板、信号機電源付加装置等の計画的な整備	466,546	○
防災・安全交付金（道路事業） 【建設部】	道道の新設、改築、修繕等に関する事業のうち防災・安全対策に係る事業のうち道路案内標識の設置等	135,000	
地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業 【経済部】	地域の観光団体等が、観光振興に係る受入体制整備や新たな商品づくりを図る事業に対して経費の一部を助成	176,410	

※：2019年度国補正の2020年度執行分を含む

## 8）地域防災活動、防災教育の推進、防災体制の充実

### （防火対策・火災予防）

- 消防法違反の是正や住宅用火災警報器設置による防火対策の強化とともに、引き続き、全道火災予防運動等の火災予防に係る啓発の取組を推進する。【総務部】

### （地域防災活動、防災教育の推進）

- 北海道地域防災マスター認定研修会の開催などにより地域防災リーダーを育成するとともに、自主防災組織率向上を図るため、市町村への優良事例の情報提供や地域全体でのニーズ共有・相互支援を目的とした意見交換会の開催など自立的な地域防災活動を支援する。また、地域防災マスターの認定講座・研修に児童・生徒向け防災教育カリキュラム等を盛り込むなどし、教育現場での防災教育を拡充し、防災活動の活性化を図る。【総務部】
- 道広報紙やfacebook等のSNSを活用した情報発信及び「ほっかいどう防災教育協働ネットワーク」の構成員と協働した防災教育イベントの実施などにより、道民各層に対する防災教育を推進するとともに、「Doはぐ」や「北海道防災教育アドバイザー」を北海道地域防災マスターの育成や地域の防災研修に活用することにより防災教育の充実を図る。【総務部】
- 新たな防災教育・訓練手法の開発・普及等を行う実践的な防災教育モデルを構築し、学校及び地域における防災教育の一層の充実を図る。また、市町村で実施される「1日防災学校」への支援を通じて、児童生徒が災害に正しく向き合い、行動できるよう、防災教育の促進を図る。【総務部・教育庁】



北海道地域防災マスター  
フォローアップ研修  
(2020.2 渡島地区)



1日防災学校  
(2019.7 旭川市)

### （非常用物資の備蓄促進）

- 各種会議や（総合）振興局と市町村との防災合同研修を活用し、市町村に備蓄の必要性を周知するなど、市町村と連携した備蓄体制の整備に向けた取組を進める。【総務部】
- 市町村の備蓄状況の把握を行うとともに、各種会議、防災ミーティング等により、要配慮者向けの非常用物資を含めた備蓄の必要性や支援制度の周知を行うなど市町村の備蓄体制の強化を促進する。【総務部】
- 防災関係機関と協働する防災教育イベントにおいて、備蓄食料や防災グッズ等、自発的な備蓄に関する啓発を実施する。また、ホームページ、facebook等SNSを活用し、住民や企業等における最低3日間、推奨1週間の食料等備蓄の必要性に関する情報発信を行う。【総務部】
- 市町村における防災訓練や研修、地域防災マスターフォローアップ研修等において、各地域での備蓄に関する啓発を実施する。【総務部】



物資の集積拠点  
(2018.9 厚真町)

**(救急活動等に要する情報基盤、資機材の整備)**

- 消防救急デジタル無線の維持管理や災害用資機材の更新・整備に係る財政支援について国に提案・要望するほか、災害関連情報を迅速、的確に収集し、関係機関と共有するための資機材等の整備について検討する。【総務部・警察本部】

**(災害対策本部機能等の強化)**

- 道の業務継続計画（BCP）に規定している災害対策本部に係る運用事項について、北海道総合防災訓練の検証結果等を踏まえた見直しの検討を行うとともに、必要な資機材の整備や本部要員の非常用備蓄を計画的に整備する。【総務部】

- 市町村職員を対象に実施するBCP策定研修等を通じて、市町村地域防災計画や業務継続計画の見直しを促進するほか、「消防団加入促進支援事業」などを通じて、消防団の更なる充実強化・入団促進へ向けた取組を行う。【総務部】

- 災害時の防災拠点となる庁舎の非常用電源設備等の整備を進めるとともに、災害時の防災拠点となる庁舎の耐震化に係る国の財政支援措置（緊急防災・減災事業債）の活用及び代替庁舎の確保について、市町村に対し、助言などの支援を行う。【総務部】



役場庁舎の耐震化（秩父別町）

**(行政の業務継続体制の整備)**

- 道のBCPについて、発生した災害の態様や社会情勢等を踏まえて見直しの検討を行う。【総務部・教育庁】

- 市町村のBCPについて、災害時における行政機能の確保に向けた推進会議の開催や、道のホームページを活用した先進事例の情報提供、BCP策定研修会の開催など計画の内容充実に向けた取組を推進する。【総務部・総合政策部】

- 道のICT部門の業務継続計画（ICT-BCP）については、災害時を想定した訓練を実施するなどICT-BCPに沿った取組を進めるとともに、ICT-BCP未策定の市町村に対し、セミナーの開催等により、ICT-BCPの必要性や策定手順などについて助言等を行い、市町村のICT-BCP策定を促進する。【総合政策部】



BCP策定演習セミナー

**(石油燃料供給の確保、石油コンビナート等の防災対策)**

- 北海道石油業協同組合連合会と締結した「災害時における石油類燃料の供給等に関する協定」の実効性を確保するため、道と防災協定を締結する中小企業者等への受注機会の確保・拡大に向けた取組を実施する。また、北海道石油業協同組合連合会などと締結した「災害時における石油類燃料の供給等に関する協定」及び覚書をもとに、重要施設の連絡先や石油類タンクなどの情報の共有、災害時の優先給油の要請スキーム（窓口や手順等）や燃料タンクの満量維持など平常時の備えについて周知を図るなど、災害に備えた一層の連携強化を図る。【経済部】

- 自家発電設備を整備した北海道地域サポートS Sの周知を行うとともに、石油供給関連事業者等の災害対応能力向上を図るため、北海道石油業協同組合連合会等と連携し、災害時を想定した給油等の訓練を実施する。【経済部】
- 関係機関と連携し、石油コンビナート等特別防災区域内の特定事業所への合同立入検査や、北海道石油コンビナート等防災計画に基づく総合防災訓練を実施する。【総務部】

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
自主防災組織活動カバー率	59.7% (2018)	全国平均値以上 (2024)	59.7% (2018)	71.8%	全世帯数のうち、自主防災組織の活動範囲に含まれている地域の世帯数の割合 (2018全国平均値 83.2%)
防災訓練の実施市町村数	155市町村 (2017)	179市町村 (2024)	155市町村 (2017)	86.6%	各年度に実施した防災訓練の実施市町村数
備蓄整備方針を策定した振興局数	9振興局 (2019)	14振興局 (2024)	9振興局 (2019)	64.3%	地域防災備蓄整備方針を策定した振興局数
市町村庁舎の耐震化率	62.6% (2017)	全国平均値 (2024)	62.6% (2017)	87.9%	防災拠点となる庁舎の耐震化状況 (2018全国平均値 81.2%)
業務継続体制が整備されている市町村の割合	13.4% (2019)	全国平均値 (2024)	13.4% (2019)	73.2%	国が定める重要6要素を全て規定したBCPを備えた市町村の割合 (2018全国平均値 18.3%)
ICT部門の業務継続計画 (ICT-BCP) が策定されている市町村の割合	19.0% (2018)	全国平均値 (2024)	19.0% (2018)	69.1%	道内の市町村でICT部門の業務継続計画 (ICT-BCP) が策定されている市町村の割合 (2017全国平均値 27.5%)
国土強靱化地域計画が策定されている市町村の割合	7.2% (2018)	100% (2020)	7.2% (2018)	9.4%	道内の市町村で国土強靱化地域計画が策定されている市町村の割合

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
防災教育推進事業費【教育庁】	防災教育に関する安全教育モデルの普及・啓発、事業冊子の配布	8,377	
地域づくり総合交付金（地域づくり推進事業）【総合政策部】	市町村が設置する避難所等の資機材等整備等に対する助成	4,300,000	
消防団等育成強化対策費補助金（消防力強化対策費）【総務部】	消防団を活性化するための事業を行う道消防協会への補助	15,893	
庁舎等営繕費【総務部】	災害時の防災拠点となる庁舎の非常用電源設備等の整備	666,973	○
総合防災体制整備費（防災会議運営費）【総務部】	北海道防災会議及び北海道石油コンビナート等防災本部の開催	5,836	○
総合防災体制整備費（防災訓練費）【総務部】	例年実施の総合防災訓練等とともに、北海道石油コンビナート等総合防災訓練の実施	1,778	○

## 9) 復旧・復興等を担う人材の育成・確保

### (地籍調査の実施)

- 大規模な地震及び津波被害が想定される、比較的人口が集中している地域のうち、地籍調査が進んでいない地域に、調査の働きかけを行うほか、「地籍調査推進だより」による啓発事業を実施する。【農政部】

### (仮設住宅など生活基盤等の迅速な確保)

- 所有者不明土地に関する法制度の情報収集に努めるとともに、罹災証明事務などの災害対応業務経験のある職員のリストを作成するなど、被災市町村への迅速な派遣体制を検討する。【総務部・建設部】

### (災害対応に不可欠な建設業との連携)

- 合同訓練や「災害時における協力体制に関する協定」などを通じ、災害発生時の対応に専門的な技術を有し、地域事情にも精通する建設業をはじめとした関係機関との連携強化を図る。【総務部・建設部・警察本部】
- 「北海道建設産業支援プラン2018」に基づき、建設業団体等が行う人材の確保・育成等の取組を支援するとともに、建設業団体や教育機関等と連携し、建設産業の魅力・役割等を発信するイベントや研修会の開催など建設産業の担い手の確保・育成に係る取組を推進する。【建設部】



建設産業ふれあい展  
2020.1 札幌市

### (地域コミュニティ機能の維持・活性化)

- 集落対策の取組を促進するため、セミナーの開催や意見交換の場を提供するなどサポート体制を充実させ、地域課題解決に向けた支援を行う。また、農村地域の活性化を図るため、魅力ある多様なコンテンツの開発を推進し、優良事例の情報発信を行うなど農村ツーリズムの取組を推進する。【総合政策部・農政部】



元気なふるさとづくり交流大会

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
市町村地籍調査事業費 【農政部】	国土調査法に基づき、一筆ごとの土地の所有者、地番、地目、境界の調査・測量を行い、その結果を地図と簿冊に作成する地籍調査事業に対する助成	393,923	○
総合防災体制整備費（防災訓練費） 【総務部】	例年実施の総合防災訓練等とともに、北海道石油コンビナート等総合防災訓練の実施	1,778	○
建設業経営体質強化対策事業費 (建設業担い手対策推進事業費) 【建設部】	建設産業の担い手の確保・育成を図るため、建設業団体等が行う人材確保・育成等の取組に係る事業経費の一部を補助するとともに、建設産業の魅力・役割等を発信するイベントや、人材確保・育成に向けた研修会等の開催	8,954	
地域がうらおう農村ツーリズム発展事業 【農政部】	農村を中心とした地域ぐるみの受入体制により国内・外の観光需要を取り込み、農村地域の所得向上や交流・関係人口の増加による活性化を図るため、受入の中核となる人材や事業者の連携による魅力ある多様なコンテンツの開発を推進し、優良事例の情報発信により全道へ普及・定着	4,027	

指標名	計画策定時の 現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
地籍調査進捗率	61% (2018)	65% (2020)	61% (2018)	93.8%	地籍調査を実施した面積を、国有林及び公有水面等を除いた対象面積で除して算出したもの
道内建設就業者の年齢階層別構成比の29歳以下の就業割合	8.3% (2018)	10.0% (2024)	8.3% (2018)	83.0%	道内建設就業者のうち、「15歳以上29歳以下」の就業者の占める割合
集落対策を実施している市町村数（集落対策に取り組む市町村数）	151市町村 (2019)	177市町村 (2025)	151市町村 (2019)	85.3%	道内において集落対策を実施している市町村数

## II 国全体の強靱化に貢献するバックアップ機能の発揮

### 1) 本社機能や生産拠点等の移転・立地の促進

#### (リスク分散を重視した企業立地等の促進)

- 首都圏等の企業の本社機能移転やサテライトオフィス、テレワーク拠点の誘致に向け、フォーラム開催や展示会への出展など本道への立地に向けた取組を推進するとともに、人材確保の支援のため大学やU I ターンフェアなどに関する情報提供を併せて行う。【経済部】
- 本道にデータセンターを誘致するため、国内外のデータセンター事業者や投資家等に対するPR活動を強化するとともに、データセンター等の誘致に向けた適地調査を行う。【経済部】
- 北海道の魅力をPRするフォーラムや展示会等において、首都圏等の企業に対して、災害からの復旧状況や電力の安定供給等についての情報発信を行う。【経済部】

#### (企業の事業継続体制の強化)

- 道内中小企業の事業継続計画（BCP）策定の促進を図るため、企業への専門家派遣や「北海道版BCP策定の手引き」を配付し普及啓発を図るとともに、「事業継続力強化支援計画」の策定及び関連事業の実施を担う経営指導員の設置に関し、必要な支援を行う。【経済部】



企業立地活動  
(ふるさと北海道応援フォーラム)



データセンター誘致に向けたセミナー

#### (被災企業等への金融支援)

- 災害に伴い経営に影響を受けた中小企業者等の経営の安定を図るため「経営環境変化対応貸付（災害復旧）」による金融支援とともに、中小企業等が実施する事前防災・減災のための取組に対する金融支援を実施する。【経済部】

#### (政府機能等のバックアップ)

- 災害時における政府機能のバックアップについて、国の動向等を注視しつつ、関係自治体などと連携を図りながら、必要な取組を進める。【総合政策部】
- 本道にデータセンターを誘致するため、国内外のデータセンター事業者や投資家等に対するPR活動を強化する。【経済部】

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
リスク分散による企業立地件数	122件 (2014~18 の累計)	125件 (2020~24 の累計)	122件 (2014~18 の累計)	-	リスク分散を理由とした道内での企業立地（新設及び増設）の件数（2020~2024年度の累計）

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
データセンター集積推進事業 【経済部】	北海道の冷涼な気候を活かしたデータセンターの誘致	24,581	

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
企業立地促進費補助金 【経済部】	北海道産業振興条例に基づき工場等を増設する者に対する助成	1,751,659	
サテライトオフィス誘致事業 【経済部】	本社機能移転拡充やサテライトオフィス等の誘致活動を展開	7,650	
中小企業総合振興資金貸付金 【経済部】	中小企業者の経営基盤の強化等を図り本道経済の発展に資するため、金融機関に原資を預託し、中小企業者に対する融資を促進	88,387,000	

### 2) 食料生産基盤の整備、道産食料品の販路拡大・産地備蓄の促進

#### (食料生産基盤の整備)

- 安定した食料供給機能を維持できるよう、国に対し予算の確保について要望を行うとともに、耐震化などの防災・減災対策を含め、農地や農業水利施設、漁港施設等の生産基盤の整備や長寿命化対策を着実に推進する。【農政部・水産林務部】



漁港整備（新ひだか町）

- 農水産業の生産力を確保するため、関係団体と連携し、経営安定対策や新規就業者支援など、担い手確保に資する取組を推進するとともに、ロボット、AI、IoTの活用を視野に入れた取組を検討する。【農政部・水産林務部】



基盤整備を契機としたスマート農業の導入  
(岩見沢市)



道産品展示販売  
(どさんこプラザ有楽町店)

#### (道産食料品の販路拡大)

- 地域資源を有効活用した商品開発や地域ブランドの創出に取り組む食のキーパーソンの育成のほか、首都圏での道産品の展示や斡旋販売、企業のマーケティング支援など道産品の販路拡大に係る各種取組を推進する。また、農水産物や加工食品の販路拡大に向け、農林漁業者等の6次産業化や新商品の開発等を支援を実施する。【経済部・農政部・水産林務部】

#### (道産農産物の産地備蓄の推進)

- 雪氷冷熱により貯蔵期間を延長した道産農産物の経済性や、市場等の評価に関する知見を広く情報提供するとともに、雪氷冷熱等再生可能エネルギーを活用した取組に対する関連施策に関する助言など農産物の円滑な供給に資する取組を推進する。【農政部】

## (生鮮食料品の流通体制の確保)

- 「道内卸売市場災害対応等ネットワーク推進会議」に参画していない卸売市場に参画を促し、道内卸売市場の相互バックアップ体制の確立の強化を推進する。【経済部】

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
食料自給率（カロリーベース）	206% (2017)	258% (2025)	206% (2017)	79.8%	北海道の食料消費が、道内の農業生産によってどのくらい賄われるかをカロリー（供給熱量）ベースで算出したもの
農業産出額	11,264 億円 (2017*)	現状値以上 (2025)	12,762 億円 (2017)	113.3%	農業生産活動による最終生産物（耕種、畜産）の総算出額 *2011～2017のうち最高と最低を除いた5か年の平均
北海道が作成した基幹的な農業水利施設における個別施設ごとの長寿命化計画の策定割合	50% (2018)	100% (2020)	50% (2018)	50.0%	北海道が作成した基幹的な農業水利施設における個別施設計画の策定割合（受益面積100ha以上かつ2020年までに標準耐用年数の1/2以上を経過する施設）
水産物の流通拠点となる漁港のうち、耐震・耐津波化が図られており、かつ、BCPが策定されている漁港の割合	0% (2018)	80% (2026)	0% (2018)	0.0%	流通拠点漁港において、主要な防波堤や陸揚岸壁の耐震・耐津波化が図られており、かつ、BCPが策定されている漁港の割合

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
農業農村整備事業【農政部】	ほ場の大区画化、農地の排水対策、老朽化した農業水利施設等の長寿命化など、農業の生産力や競争力強化、農村地域の国土強靱化に不可欠な整備	※ 112,849,234	○
中山間地域等直接支払交付金【農政部】	中山間地域等において、農業生産条件の不利益を補正するため、耕作放棄地の発生防止や機械・農作業の共同化等、将来に向けて農業生産活動を維持する活動を支援	6,522,417	
水産基盤整備事業【水産林務部】	安全安心な水産物の安定供給を図るため、耐震化などの防災・減災対策を含めた漁港施設、漁場施設など水産物の生産基盤の整備	※ 26,349,345	○
水産業振興構造改善事業費【水産林務部】	漁協等が行う水産加工施設等の整備に対する支援	1,337,962	
北海道食のキーパーソン育成事業【経済部】	北海道内で食品づくりに携わる者を対象に、マーケティング手法と地域資源を有効に活用した商品開発、地域ブランドの創出や経営力アップの研修を開催し、地域における食のキーパーソンを育成	19,276	
食品製造業のマーケティング力強化事業【経済部】	道産食品の高付加価値化と北海道ブランドの磨き上げを図るため、地域食材を活用した上質な商品をブランドとして認定し、それらの効果的な発信・磨き上げを行う審査会や広報を実施	6,006	
成長市場向けマーケティング支援事業【経済部】	道産食材の高付加価値化と北海道ブランドの確立・磨き上げを図るため、相談会や商談会を実施し、首都圏等のアップ層をターゲットとした道産食品の磨き上げ、販路拡大	11,118	
国際大会等を契機とした食と観光の魅力発信事業【経済部】	国際大会等の開催を契機に国内外の需要獲得を目的として、首都圏等において道内地域の食、観光、文化の魅力をPRし、道産品のブランド力向上を推進	32,645	
強い農業づくり事業【農政部】	農業生産の高品質・高付加価値化や低コスト化の推進、自給飼料生産拡大等に必要施設整備等に対する支援	4,508,820	
ICT技術等を活用したコンブ生産増大対策事業【水産林務部】	ICT技術等を活用し、漁場の分布状況の把握による漁場の効率的な管理や生産過程の自動化の促進	13,451	

※：2019年度国補正の2020年度執行分を含む

## 3) 再生可能エネルギーの導入拡大・電力基盤の更なる強化

### (再生可能エネルギーの導入拡大)

- 新エネルギー導入加速化基金を活用し、地域における先駆的なエネルギーの地産地消のモデルとなる取組に対する支援などを通じて、本道における再生可能エネルギーの導入拡大を推進する。【環境生活部・経済部】

### (電力基盤等の整備)

- 電力の安定供給などの観点から、北本連系を含む送電網等の電力基盤の増強等に向けた仕組みの整備を促進するため、国等に対し要望を行う。【経済部】
- 地域のエネルギー資源の最大限の活用を図るため、発電事業者が行う送電線整備に要する費用を支援するとともに、再生可能エネルギーの中では比較的低コストの低い風力発電の導入拡大のために行われる送電網の整備・技術課題の実証事業の推進を図る。【経済部】
- 停電等により電力系統が遮断された場合でも対応可能なエネルギーの地産地消モデルとなる取組の推進や市町村等が行う地域のエネルギー資源を活用した設備導入等の支援を行う。【経済部】
- コージェネレーションシステムなどの導入促進に向けて、燃料電池及び熱利用設備などの導入支援について関係機関と連携して取り組む。【経済部】
- 大規模地震が発生した場合にも電力の安定供給を確保するため、道営発電施設の耐震化や改修を進める。また、国や電気事業者に対し、電力の安定供給や災害時における正確かつ迅速な情報伝達を要請する。【経済部・企業局】



ユース宗谷岬



家庭用燃料電池（エネファーム）の展示（2019.1 札幌市）

### (多様なエネルギー資源の活用)

- 「北海道水素社会実現戦略ビジョン」等に基づき、燃料電池自動車の導入促進に向けた検討や機運醸成のための普及啓発を実施し、水素社会実現に向けた取組を推進する。また、天然ガスの利用促進に向けた北海道天然ガス利用促進協議会の取組への協力や、国の北海道周辺海域でのメタンハイドレートの調査、研究開発の促進について国に要請するとともに、木質バイオマスの利用施設等の整備への支援や流通体制の構築、木質ペレットの利用促進を図るなどエネルギー構成の多様化に向けた取組を推進する。【環境生活部・経済部・水産林務部】



燃料電池自動車（FCV）の展示（2018.12 帯広市）

- 関係市町と連携し、道内石炭資源の有効活用を視野に入れた石炭地下ガス化やクリーンコールテクノロジーの開発推進などについて積極的に国に対し働きかけるとともに、釧路市等と連携して釧路火力発電所の運転開始を支援する。【経済部】

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
新エネルギー導入量 【発電分野】設備容量	292.7万kW (2017)	292.7万kW以上 (2025)	292.7万kW (2017)	100%	道内における新エネルギー発電設備の設備容量
新エネルギー導入量 【発電分野】発電電力量	7,921百万kWh (2017)	8,115百万kWh以上 (2025)	7,921百万kWh (2017)	97.6%	道内における新エネルギー発電設備による発電電力量
新エネルギー導入量 【熱利用分野】熱量	14,932TJ (2017)	20,133TJ以上 (2025)	14,932TJ (2017)	74.2%	道内の熱利用分野における新エネルギー導入量

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
バイオマス利活用推進事業費 【環境生活部】	産学官ネットワーク組織（北海道バイオマスネットワーク会議）の運営、フォーラム等の開催、市町村による活用推進計画等の策定等の支援等	601	
新エネルギー等率先導入推進事業 【経済部】	国の電源立地地域対策交付金を活用し、地域において、道自らが道有施設への率先した新エネ導入や省エネを行うことにより、道内市町村や企業等への普及拡大	92,497	
省エネルギー・新エネルギー促進事業費 【経済部】	「北海道省エネルギー・新エネルギー促進条例」及び「北海道省エネルギー・新エネルギー促進行動計画」に基づき、省エネルギーの促進と新エネルギーの開発導入の促進	311,431	
新エネルギー導入加速化事業費 【経済部】	新エネルギー導入加速化基金を設置し、エネルギーの地産地消の取組への支援等を通じて、本道における新エネルギー導入等を加速化	1,814,272	
木質バイオマス資源活用促進事業費 【水産林務部】	急増する木質バイオマス需要に対応するため、林地未利用材の有効活用を進め、原料の安定供給を図るとともに、バイオマスの熱利用を促進するため小規模分散型の利用を促進	8,951	
林業・木材産業構造改革事業 【水産林務部】	林地未利用材や製材端材等のエネルギー利用を図るため、収集、運搬、利用施設等の整備に対する支援	659,578	
地域資源活用基盤整備支援事業 【経済部】	発電事業者が行なう送電線を整備する事業に要する費用を支援し、地域のエネルギー資源の最大限の活用を促進	10,000	
エネルギー地産地消事業化モデル支援事業 【経済部】	地域の特性に応じたエネルギー資源を効果的、効率的に利用し、エネルギー地産地消のモデルとなる取組に対し支援し、エネルギー自給・地域循環の取組を促進	584,994	
エネルギー地産地消事業化モデル支援事業（非常時対応型モデル） 【経済部】	地域の特性に応じたエネルギー資源を効果的、効率的に利用し、非常時にも対応可能なエネルギー地産地消のモデルとなる取組に対し支援し、エネルギー自給・地域循環の取組を促進	556,984	
水素社会推進事業費 【環境生活部】	使用段階で二酸化炭素を排出しない水素エネルギーの利活用拡大に向けた取組を推進	2,511	

※：2019年度国補正の2020年度執行分を含む

#### 4）救助・救急、保健医療体制の整備

##### （物資供給等に係る連携体制の整備）

- 北海道防災総合訓練などを通じて、協定を締結している企業などとの連携強化を図るとともに、必要に応じて協定内容の見直しや、新規の協定締結を実施する。【総務部】

- 道のホームページや道と市町村の共通ネットワークである「地域をつなげるネットワーク」等を活用しながら、各市町村へ包括交流連携協定締結に向けた検討を働きかけるなど、地域間交流の取組を促進する。【総合政策部】
- 民間事業者等からの支援物資の経費負担や調達方法を事前に確認するとともに、北海道災害対策本部内への物流専門家の配置や物資拠点となる施設等への派遣、物資輸送訓練の実施など円滑な物資供給体制の構築を促進する。また、国が運用を開始する「物資輸送システム」の活用に向け、研修等の実施により市町村職員への周知・習熟に取り組む。【総務部】
- 災害時協定を締結している事業者等に対し、緊急通行車両の事前届出制度の普及啓発を図る。【総務部】
- 災害発生時のボランティア活動が円滑に行われるよう、北海道災害ボランティアセンターが行う「ネットワーク会議」の開催などによる関係機関等との連携体制の構築のほか、ボランティア活動をコーディネートする人材育成、「市町村災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」の普及などを通じて、道内の被災者支援体制の充実強化を促進する。【総務部・保健福祉部】
- 広域防災拠点のあり方の検討については、引き続き、国との情報共有に努める【総務部】



災害ボランティア活動の様子  
(2018.9 厚真町)

##### （防災訓練等による救助・救急体制の強化）



海上保安庁との合同訓練  
(2019.12)

- 広域災害を想定した複数振興局での訓練など、北海道防災会議が主催する実践的な北海道防災総合訓練を通じ、防災関係機関相互の連携強化を図る。【総務部】
- 北海道防災総合訓練や他の機関が主催する訓練、北海道ヘリコプター等運用調整会議を通じ、航空機の安全運航や災害時における活動・連携についての意見交換や協議等を行いながら、更なる相互連携や安全で効果的な航空機の運用体制の確立を図る。【総務部・保健福祉部・警察本部】
- 専門部隊等の災害対応能力の強化を図るため、国や他県の関係機関等と連携した合同訓練を実施するほか、北海道警察の災害訓練において災害想定に合わせた模擬家屋等を設置するなど効果的な訓練環境を整備する。【総務部・警察本部】

##### （自衛隊体制の維持・拡充）

- 道内全市町村で構成する「北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会」と連携・協力し、道内各地に配備されている部隊、装備、人員の維持・拡充や地域コミュニティとの連携などの要請活動の取組を推進する。【総務部】



自衛隊の災害派遣活動

## （被災時の保健医療支援体制の強化）

- DMAT（災害派遣医療チーム）の災害対応力の向上を図るため、関係機関との連携の下、災害を想定した実働訓練を実施するとともに、効果的な訓練の実施に向けた検討を行い、適宜改善を図る。【保健福祉部】
- 災害時の保健医療福祉活動に係る体制の構築に向け、各種会議や研修、訓練等を通じ保健医療福祉活動チームを構成する各関係機関相互の平時からの連携に取り組む。また、大規模災害時や停電時においても避難所や在宅の住民の医療、保健、福祉のニーズに対応するため、道立保健所に非常用自家発電設備を整備する。【保健福祉部】
- 災害拠点病院に対し、年々拡大する指定要件の対応や施設・設備の充実に向けた働きかけを行う。また、国の支援制度を活用しながら、救急救命センター等が行う非常用自家発電設備等の整備強化を促進するとともに、より多くの医療機関で整備が進むよう新たな支援制度の創設を国に要望する。【保健福祉部】
- 大規模災害発生時における医療提供体制を確保するため、平時よりSCUの円滑な運営体制の構築に向けた関係機関と連携を進める。【保健福祉部】

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
北海道防災総合訓練の実施件数	年1回(2019)	毎年実施(-)	年1回(2019)	100.0%	毎年度に実施した北海道防災総合訓練の実施件数
北海道警察警備訓練の実施件数	年1回(2019)	毎年実施(-)	年1回(2019)	100.0%	毎年度に実施した北海道警察災害警備訓練の実施件数
緊急消防援助隊登録数	386部隊(2019)	401部隊(2023)	386部隊(2019)	96.3%	2023年度最終目標に向けた中間登録数
災害拠点病院におけるDMAT保有率	100%(2019)	100%を維持(-)	100%(2019)	100.0%	災害拠点病院のうちDMAT（災害派遣医療チーム）を保有している病院の割合
DMAT実働訓練の実施回数	年1回(2019)	年1回以上(-)	年1回(2019)	100.0%	北海道の主催により、DMAT（災害派遣医療チーム）が参加する北海道DMAT実働訓練の実施回数
通常時の6割程度の発電容量と3日分の燃料を備えた自家発電設備を設置している災害拠点病院の割合	100%(2019)	100%を維持(-)	100%(2019)	100.0%	一定以上の自家発電能力を備えている災害拠点病院の割合
災害拠点病院における応急用医療資機材の整備率	100%(2019)	100%を維持(-)	100%(2019)	100.0%	応急用資機材を整備している災害拠点病院の割合
災害拠点病院及び救命救急センターの耐震化率	97%(2019)	100%(2020)	97%(2019)	97.1%	災害拠点病院及び救命救急センターのうち、一定の耐震性を備えている病院の割合

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
総合防災体制整備費（防災訓練費）【総務部】	例年実施の総合防災訓練等とともに、北海道石油コンビナート等総合防災訓練の実施	1,778	○
北海道災害ボランティアセンター運営活性化等事業費補助金【保健福祉部】	災害発生時のボランティア活動が円滑に行われるよう、平常時から、関係機関との連携体制の構築や人材育成の取組等を行う北海道災害ボランティアセンターの運営等に対する支援	12,107	
総合防災体制整備費（防災会議運営費）【総務部】	北海道防災会議及び北海道石油コンビナート等防災本部の開催	5,836	○

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
総合防災体制整備費（北海道消防防災ヘリコプター共同運航関連経費）【総務部】	消防防災ヘリコプター共同運航に関する環境整備	248,001	
ドクターヘリ整備事業費【保健福祉部】	救命救急センターにドクターヘリを配備し、救急患者の救命率等の向上及び広域救急患者搬送体制の向上を図ることを目的としたドクターヘリの運航に係る経費の補助	1,005,683	
防災危機管理対策費（うち訓練用模擬家屋作成経費）【警察本部】	北海道警察が災害訓練を実施するに当たり、災害想定に合わせた模擬家屋の設置等、訓練場所を設営	495	
災害拠点病院整備事業費補助金（うちDMAT訓練実施事業）【保健福祉部】	DMAT実働訓練の実施	625	
災害拠点病院整備事業費補助金（うち施設整備事業）【保健福祉部】	災害拠点病院として必要な施設整備の補助	40,224	○

## 5）応援・受援体制の整備

### （広域応援・受援体制の整備）

- 全国知事会北海道東北ブロックにおいて、2019年の台風第19号を踏まえ、被災市区町村応援職員確保システムとの整合性を図るよう協定見直しを行う。【総務部】
- 市町村の受援体制構築に向け市町村に対し受援計画のひな型を提示するなどの支援を行う。【総務部】
- 職員の派遣に当たり、過去に派遣されたことのある職員のリストを活用するなど地域や災害の特性等を考慮し職員を選定するとともに、防災総合訓練などの際に、市町村や防災担当以外の職員に対するノウハウの伝達など災害対応能力の向上を図る。【総務部】

### （災害廃棄物の処理体制の整備）

- 2017年度に策定した道の災害廃棄物処理計画について、引き続き、市町村を対象としたセミナーを開催するとともに、国と連携した災害廃棄物対策の推進のためのモデル事業を実施するなど、市町村災害廃棄物処理計画の策定を促進する。また、道内関係団体との協定を通じ、災害廃棄物の処理に関する相互支援協力体制の構築を図る。【環境生活部】

### （行政職員の活用促進）

- 「公共土木施設災害時における北海道及び市町村相互の応援に関する連絡会議」の開催や災害対応研修・訓練を通じ、相互応援体制を強化するほか、災害時には、必要に応じて被災市町村に北海道職員を派遣し、初動対応や応急対策実施の迅速化を図る。【総務部・建設部】

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
市町村における災害廃棄物処理計画の策定率	10%(2018)	60%(2025)	10%(2018)	16.7%	国の災害廃棄物対策指針に基づき策定する災害廃棄物処理計画の市町村策定率

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
ごみ処理広域化・集約化事業費【環境生活部】	人口減少などの社会情勢の変化、CO2削減の必要性、多発する災害対策などの新たな課題を踏まえ、現在のごみの広域化計画を見直し、新たな計画を策定	21,630	

### III 北海道の強靱化、全国の強靱化を支える交通ネットワーク整備

#### 1) 北海道新幹線の整備

##### (北海道新幹線の整備等)

- 開業時期を5年前倒しし、2030年度末（令和12年度末）の完成・開業を目指すことが2015年1月に決定されたことから、今後とも、沿線自治体や関係機関と連携し、着実な整備促進に向けて、積極的に取り組む。【総合政策部】
- 青函トンネル内における160km/hへの走行速度の引き上げについては2019年3月のダイヤ改正から実現され、また、特定時期（GW、お盆、年末年始）の200km/h以上での高速走行についても、遅くとも2020年度（令和2年度）の開始を目指すとしており、引き続き、全ダイヤの高速走行が早期に実現されるよう、青森県や沿線自治体等との連携を一層密にしながら、国などに対し強く求めている。【総合政策部】



北海道新幹線 H5系  
(提供：JR北海道)



青函トンネル  
(三線式軌道)

2020年度 主な道予算事業	概 要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
北海道新幹線鉄道整備事業費負担金 【総合政策部】	(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構に対し、北海道新幹線建設費に伴う地方負担分（負担金）を支出	24,866,667	
北海道新幹線建設等促進費 【総合政策部】	北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の早期完成及び札幌・東京間の最大限の高速化の実現に向けた取組を展開	10,255	

#### 2) 道路交通ネットワークの整備

##### (緊急輸送道路等の整備)

- 市街地等の緊急輸送道路や避難路等の整備について、部分供用を図りながらの段階的整備や危険箇所の対策を優先的に行うなど、効果的・効率的な整備を行う。【建設部】

##### (災害時における新たな交通手段の活用)

- 国の検討状況や他の自治体での活用等の状況を踏まえ、災害時における自転車の利活用のあり方等を検討する。【総合政策部】

##### (陸路における流通拠点の機能強化)

- 北海道トラックターミナル(株)や国、札幌市等と連携し、流通拠点の機能強化や耐災害性を高める取組を進める。【経済部】

##### (道内交通ネットワークの整備)

- 災害時における被災地への物資供給など、迅速な支援を行うために不可欠な高規格幹線道路網の早期形成について、引き続き、地元市町村や関係団体など一体となって、国に提案・要望していくほか、交通ネットワークの強化に資するインターチェンジ周辺道路網の整備を計画的に推進する。【建設部】
- 広域交通の分断を防ぎ、防災拠点間の代替性を確保するための地域高規格道路、救助・救急及び物資輸送のための緊急輸送道路の整備や避難路の確保のための道路整備を計画的に推進する。【建設部】



北海道高速道路等ネットワーク

2020年度 主な道予算事業	概 要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
社会資本整備総合交付金（道路事業） 【建設部】	市街地における緊急輸送道路や避難路等の整備及び無電柱化、道道の新設、改築、修繕等に関する事業	※ 4,495,282	○
防災・安全交付金（道路事業） 【建設部】	市街地における緊急輸送道路や避難路等の整備及び無電柱化、道道の新設、改築、修繕等に関する事業のうち防災・安全対策に係る事業	※ 24,374,658	○

※：2019年度国補正の2020年度執行分を含む

#### 3) 道路施設の防災・老朽化対策

##### (道路施設の防災対策等)

- 落石や岩盤崩壊など、道路防災総点検や道路陥没を未然に防ぐための路面下空洞調査を実施し、その結果を踏まえ、早期に対策が必要な箇所の対策工を実施するとともに、その他の箇所についても、現地の状況を勘案し、緊急性の高い箇所の対策工を実施する。【建設部】
- 緊急輸送道路や避難路上にある橋梁などの耐震化を推進するほか、各道路施設が所定の機能を発揮できるように道路施設ごとの長寿命化修繕計画等に基づき計画的な修繕を行う。また、農道橋や林道橋のインフラ長寿命化計画が策定されていない市町村等の進捗状況を把握し、引き続き、情報の提供や策定への働きかけを行う。【農政部・水産林務部・建設部】



橋梁の老朽化対策

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
道路防災総点検における道路斜面等の要対策箇所対策率(道道)	15% (2018)	80% (2027)	15% (2018)	18.8%	落石や岩石崩落などの要対策箇所への対策
緊急輸送道路上等の橋梁の耐震化率(道道)	0% (2018)	50% (2028)	0% (2018)	0.0%	緊急輸送道路上等の橋梁耐震化率(道道)
橋梁の予防保全率(道道)	67% (2018)	100% (2022)	67% (2018)	67.0%	北海道橋梁長寿命化修繕計画に基づく橋梁補修
農道橋・農道トンネルを対象とした機能保全計画の策定割合	74% (2018)	100% (2020)	74% (2018)	74.0%	農道橋・農道トンネルの長寿命化のための機能保全計画の策定割合

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
防災・安全交付金(道路事業) 【建設部】	道道の新設、改築、修繕等に関する事業のうち防災・安全対策に係る事業	※ 4,788,868	○
農業農村整備事業(農地整備事業 (通作条件整備)) 【農政部】	道路施設の老朽化対策等	農業農村整備事業の内数	○
森林整備事業(林道事業) 【水産林務部】	森林整備を実施する上で重要な基盤となる林道等の路網整備	※ 2,748,932	○

※：2019年度国補正の2020年度執行分を含む

#### 4) 港湾・空港の機能強化

##### (空港の機能強化)

- 新千歳空港について、防災・減災の視点に立った空港施設の改良整備などが着実に進むよう、国に対し提案・要望を行うなど国際拠点空港化に向けた取組を推進する。【総合政策部】
- 道内空港におけるCIQ(税関・出入国管理・検疫)体制を含めた総合的な受入体制の充実強化や空港施設の整備促進について、国に対して提案・要望するとともに、道管理空港の耐震調査やエプロン改良など、道内空港の機能強化に向けた取組を推進する。【総合政策部】



北海道の13空港



女満別空港

- 道内7空港一括民間委託を契機に、新たな航空路線の開設や既存路線の充実などに向け、市町村や経済界、SPC等と連携しながら、道内13空港が一体となって取り組むほか、路線の維持・確保等について、北海道地域航空推進協議会などと連携し、国や航空会社へ要請を行う。【総合政策部】

##### (港湾の機能強化)

- 計画的な港湾施設の老朽化対策やターミナル機能の強化等の推進に向けて、国に必要な予算の確保を提案・要望し、港湾の機能強化を図る。【総合政策部】



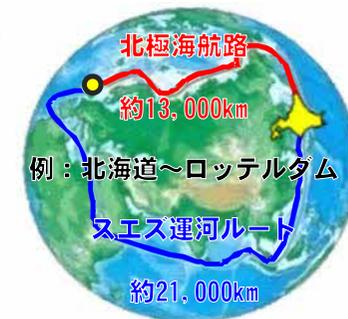
苫小牧港南ふ頭岸壁整備状況



港湾BCPに基づく図上訓練

- 各港湾における事業継続計画(BCP)の運用、更新状況等について情報収集を行うほか、関係機関と連携して検証を行うなど、BCPの実効性を高める取組を推進する。【総合政策部】

- 北極海航路の本格的な運用に向け、最新動向等に関する情報を産学官で共有するためのセミナーや会議等を開催するとともに、国際会議で道の取組を発信し北海道をPRするなど、北極海航路の利活用に向けた取組を推進する。【総合政策部】



既存航路と北極海航路



北極海航路船舶の寄港  
(2019.10 苫小牧市)

指標名	計画策定時の現状値	目標値	実績値	進捗率	指標の説明
国際航空定期便就航路線数	22路線 (2019)	現状維持 (2020)	22路線 (2019)	100.0%	道内空港を発着する国際航空路線数
北海道太平洋側港湾BCPおよび道央圏港湾BCP(計9港湾)における、防災訓練を実施した港湾数	2港湾 (2019)	9港湾 (2024)	2港湾 (2019)	22.2%	北海道太平洋側港湾BCPおよび道央圏港湾BCPにおける、防災訓練を実施した港湾数(計9港湾)

2020年度 主な道予算事業	概要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
航空ネットワーク形成推進費(国際航空ネットワーク形成推進事業費) 【総合政策部】	道内空港の国際化を推進するため、官民一体となった取組の展開	2,997	
航空ネットワーク形成推進費(国際航空定期便就航促進事業費補助金) 【総合政策部】	道内空港において国際航空定期便を就航させる航空会社に対して、運航に直接要する経費を補助することにより、国際航空定期便の就航促進	111,200	

2020年度 主な道予算事業	概 要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
航空ネットワーク形成推進費（地方空港国際チャーター便就航促進事業費補助金） 【総合政策部】	道内地方空港と海外を結ぶ定期航空路線の新規就航を促進するため、国際チャーター便を運航する航空会社に対する支援	10,000	
航空ネットワーク形成推進費（国際航空ネットワーク戦略的誘致事業） 【総合政策部】	国際航空ネットワークの充実強化を図るため、S P C等と連携した戦略的誘致活動（ワーキングチームの設置、共同セールス、FAMツアー等）を展開	35,053	
航空ネットワーク形成推進費（「新千歳～ヘルシンキ線」アウトバウンド利用拡大事業） 【総合政策部】	「新千歳～ヘルシンキ線」を将来にわたって安定的に維持、拡大を図るため、認知度向上や東北・道内地方都市などからの乗継商品の造成を通じてアウトバウンド利用の底上げを促進	15,000	
航空ネットワーク形成推進費（民間委託外空港活性化事業） 【総合政策部】	民間委託外空港への航空路線誘致・航空路線利用促進に係る支援を実施	21,980	
航空ネットワーク形成推進費（複数空港利用促進キャンペーン事業） 【総合政策部】	道内全13空港の活性化のため、空港間の移動する際に利用する二次交通の料金に係る支援を実施	10,526	
石狩湾新港・苫小牧港管理組合負担金 【総合政策部】	石狩湾新港と苫小牧港の開発と利用促進を図るため、一部事務組合の設立母体として、規約に基づく負担金の支出	2,378,928	○
国際物流拡大推進事業 【総合政策部】	北極海航路の利活用に向けて、セミナー等の開催により、最新動向等について、産学官の関係者による情報共有の促進	2,459	

## 5) 鉄道の機能維持・強化

### （鉄道の機能維持・強化）

- 鉄道施設の耐震化をはじめ耐災害性の強化に向けた取組が促進されるよう、鉄道事業者へ様々な機会を通じて求めていくほか、国に対し、支援措置の充実強化を要請する。【総合政策部】
- 本道の持続的な鉄道網の確立を図るため、J R北海道に対する支援の根拠となる法改正や本道の地域特性を十分に踏まえた支援制度の構築について、国へ提案・要望を行うとともに、経済団体や観光関係者などと連携した利用促進に積極的に取り組む。【総合政策部】



子ども鉄道旅体験

2020年度 主な道予算事業	概 要	予算額 (千円)	3か年 緊急対策
鉄道利用促進事業費（交通対策調整費） 【総合政策部】	持続的な鉄道網の確立に向け、道、市長会、町村会、経済団体、J R北海道等で構成する北海道鉄道活性化協議会が行う利用促進等の取組に要する経費の負担	28,000	
北海道鉄道利用促進環境整備交付金（交通対策調整費） 【総合政策部】	北海道旅客鉄道株式会社が単独では維持困難な線区において、北海道交通政策総合指針の考え方に基づき実施する利用促進に資する設備投資に要する経費の一部に対し、緊急的かつ臨時的な支援の実施	200,000	

# 4. 地域における施策展開の主な取組

区分	2020年度（令和2年度）の主な取組	区分	2020年度（令和2年度）の主な取組
道南	<p>○砂原漁港（森町）において、防波堤の耐津波化整備を推進。【水産林務部】</p> <p>○度杣崎海岸（森町）などで海岸保全施設の整備を推進。【建設部】</p> <p>○北海道駒ヶ岳火山防災協議会（森町、鹿部町、七飯町、各防災関係機関等）及び恵山火山防災協議会（函館市、各防災関係機関等）において、定期的なコアグループ会議を開催し、警戒避難体制の整備を推進。【総務部】</p> <p>○北海道駒ヶ岳（森町）において、監視カメラ等の機器設置等の整備を推進。【建設部】</p> <p>○恵山（函館市）において、「火山噴火緊急減災対策砂防計画」の策定を推進。【建設部】</p> <p>○板倉地先（函館市）、松江地区（奥尻町）などで治山施設の整備を推進。【水産林務部】</p> <p>○後志利別川や久根別川、厚沢部川、小田島川などで、河道掘削、築堤などの治水対策を推進。【建設部】</p> <p>○北海道駒ヶ岳（森町）や南茅部川汲（函館市）などで砂防関係施設の整備を推進。【建設部】</p> <p>○天の川地区（上ノ国町）、八雲地区（八雲町）、大野平野地区（北斗市）などで、農地や農業用施設等の整備を推進。【農政部】</p> <p>○北海道縦貫自動車道「七飯IC（仮）～大沼公園IC」、函館・江差自動車道「北斗茂辺地IC～木古内IC（仮）」、函館新外環状道路「函館IC～函館空港IC」の整備を促進。あわせて、空港通、放射4号線など周辺道路の整備を推進。【建設部】</p> <p>○地域内外との交通ネットワークの強化を図るため、江差木古内線（木古内町）等の整備を推進。【建設部】</p> <p>○函館港で老朽化対策などの整備を促進。【総合政策部】</p> <p>○北海道地域航空推進協議会などと連携を図り、航空会社などに、路線の維持・確保に向けた要請活動を実施。【総合政策部】</p> <p>○奥尻～函館線を運航する航空事業者への支援による離島航空路の確保。【総合政策部】</p> <p>○奥尻空港において、滑走路端安全区域の整備を推進。【総合政策部】</p>	道北	<p>（続く）</p> <p>○北海道地域航空推進協議会などと連携を図り、航空会社などに、路線の維持・確保に向けた要請活動を実施。【総合政策部】</p> <p>○北海道縦貫自動車道「士別剣淵IC～名寄IC」、音威子府バイパス「音威子府IC（仮）～中川IC（仮）」、富良野北道路「中富良野IC（仮）～北の峰IC」の整備を促進。あわせて、留萌小平線（留萌市）など周辺道路の整備を推進。【建設部】</p> <p>○地域内外との交通ネットワークの強化を図るため、鷹栖東神楽線（旭川市、東神楽町）の整備を推進。【建設部】</p> <p>○利尻～丘珠線を運航する航空事業者への支援による離島航空路の確保。【総合政策部】</p> <p>○利尻空港において、滑走路端安全区域の整備を推進。【総合政策部】</p> <p>○エネルギー地産地消のモデルとなる取組の実施（稚内市、豊富町）【経済部】</p> <p>○北海道の冷涼な気候等を活かした環境配慮型データセンターの誘致活動を実施。【経済部】</p>
	道央	<p>○富良漁港（日高町）などで、防波堤の耐震・耐津波化や岸壁の耐震化を推進。【水産林務部】</p> <p>○胆振海岸（苫小牧市、白老町）や虎杖浜海岸（白老町）、大川海岸（余市町）などで海岸保全施設の整備を推進。【建設部】</p> <p>○晴海地区（むかわ町）などで海岸防災林の整備を推進。【水産林務部】</p> <p>○樽前山火山防災協議会（苫小牧市、千歳市、恵庭市、白老町、安平町、厚真町、むかわ町、各防災関係機関等）及び有珠山火山防災協議会（伊達市、洞爺湖町、壮瞥町、豊浦町、各防災関係機関等）において、定期的なコアグループ会議を開催し、警戒避難体制の整備を推進。【総務部】</p> <p>○有珠山（洞爺湖町）や樽前山（苫小牧市ほか）において、観測機器の通信設備の改良等や緊急用資材の事前準備等を推進。【建設部】</p> <p>○倶多楽（登別市）において、「火山噴火緊急減災対策砂防計画」の策定を推進。【建設部】</p> <p>○高丘地区B（厚真町）、積丹半島地域（神恵内村）などで治山施設の整備を推進。【水産林務部】</p> <p>○尻別川や鶴川、望月寒川、利根別川、厚真川、真沼津川、モエレ中野川、雁来川などで、河道掘削、築堤などの治水対策を推進。【建設部】</p> <p>○豊平川・真栄川（札幌市）、小樽入船4丁目（4）（小樽市）、紋別川（伊達市）などで砂防関係施設整備を推進。【建設部】</p> <p>○北海道胆振東部地震による厚真町を中心に発生した土砂災害に対する砂防関係施設を整備。【建設部】</p> <p>○西幌地区（南幌町）、東滝川第1地区（滝川市）、二軒川第2地区（美唄市）などで、農地や農業用施設等の整備を推進。【農政部】</p> <p>○エネルギー地産地消のモデルとなる取組を実施（石狩市、厚真町）。【経済部】</p> <p>○北海道の冷涼な気候等を活かした環境配慮型データセンターの誘致活動を実施。【経済部】</p> <p>○首都圏企業のサテライトオフィスやテレワーク拠点等の道内への誘致プロモーションを実施。【経済部】</p> <p>○室蘭港、苫小牧港、小樽港、石狩湾新港で老朽化対策やターミナルの整備を促進。【総合政策部】</p> <p>○北海道地域航空推進協議会などと連携を図り、航空会社などに、路線の維持・確保に向けた要請活動を実施。【総合政策部】</p> <p>○新千歳空港において、耐震対策や誘導路複線化整備事業の実施。【総合政策部】</p> <p>○倶知安余市道路「倶知安IC（仮）～余市IC」、日高自動車道「日高厚真IC～静内～（仮）」の整備を促進。あわせて、苫小牧中央インター線（苫小牧市）など周辺道路の整備を推進。【建設部】</p> <p>○泊原発岡町村と倶知安余市道路のアクセス道路として、泊共和線（泊村、共和町）の整備を推進。【建設部】</p>	道北
道北		<p>○大津海岸（豊頃町）で海岸保全施設の整備を推進。【建設部】</p> <p>○旭浜地区（大樹町）などで海岸防災林の整備を推進。【水産林務部】</p> <p>○十勝岳火山防災協議会（上富良野町、美瑛町、富良野市、中富良野町、南富良野町、新得町、各防災関係機関等）及び雌阿寒岳火山防災協議会（釧路市、美幌町、津別町、足寄町、弟子屈町、鶴居村、白糠町、各防災関係機関等）において、定期的なコアグループ会議を開催し、警戒避難体制の整備を推進。【総務部】</p> <p>○雌阿寒岳（足寄町）において、監視カメラ等の機器設置等の整備を推進。【建設部】</p> <p>○パークゴルフ場地先（浦幌町）、薄別地区（豊頃町）などで治山施設の整備を推進。【水産林務部】</p> <p>○佐幌川でダム再生事業を推進。【建設部】</p> <p>○十勝川や利別川、帯広川などで、河道掘削、築堤などの治水対策を推進。【建設部】</p> <p>○札内川（帯広市）やペケレベツ川（清水町）などで砂防関係施設の整備を推進。【建設部】</p> <p>○東部居辺地区（上士幌町）、河北地区（芽室町）、北清水円山地区（清水町）などで、農地や農業用施設等の整備を推進。【農政部】</p> <p>○十勝港で老朽化対策などの整備を促進。【総合政策部】</p> <p>○北海道地域航空推進協議会などと連携を図り、航空会社などに、路線の維持・確保に向けた要請活動を実施。【総合政策部】</p> <p>○北海道横断自動車道「陸別IC（仮）～陸別小利別」、帯広・広尾自動車道「忠類大樹IC～豊似IC（仮）」の整備を促進。また、北海道横断自動車道「トマムIC～十勝清水IC」については4車線化を促進。【建設部】</p> <p>○地域内外との交通ネットワークの強化を図るため、川西芽室音更線（帯広市）の整備を推進。【建設部】</p> <p>○エネルギー地産地消のモデルとなる取組を実施（大樹町）。【経済部】</p> <p>○桂恋漁港（釧路市）などで、岸壁や護岸の耐震化整備を推進【水産林務部】</p> <p>○飛仁海岸（羅臼町）、野付崎海岸（標津町、別海町）、標津海岸（標津町）などで海岸保全施設の整備を推進。【建設部】</p> <p>○音別（釧路市）で海岸防災林の整備を推進。【水産林務部】</p> <p>○雌阿寒岳火山防災協議会（釧路市、美幌町、津別町、足寄町、弟子屈町、鶴居村、白糠町、各防災関係機関等）及びアトサヌプリ火山防災協議会（弟子屈町、清里町、各防災関係機関等）において、定期的なコアグループ会議を開催し、警戒避難体制の整備を推進。【総務部】</p> <p>○雌阿寒岳（釧路市）において、監視カメラ等の機器設置等の整備を推進。【建設部】</p> <p>○アトサヌプリ（弟子屈町）において、「火山噴火緊急減災対策砂防計画」の策定を推進。【建設部】</p> <p>○釧路川や春採川、別別川などで、河道掘削、築堤などの治水対策を推進。【建設部】</p> <p>○刺牛1号川（白糠町）や南大通1（釧路市）などで砂防関係施設の整備を推進。【建設部】</p> <p>○釧路地区（釧路市）、俵橋第2地区（中標津町）、茶志骨第2地区（標津町）などで、農地や農業用施設等の整備を推進。【農政部】</p> <p>○エネルギー地産地消のモデルとなる取組の実施（弟子屈町）【経済部】</p> <p>○釧路コールマインに対し、坑内の保安確保及び採炭体制の維持のための設備・機器の整備等に対し支援【経済部】</p> <p>○釧路港、根室港で老朽化対策などの整備を促進。【総合政策部】</p> <p>○北海道地域航空推進協議会などと連携を図り、航空会社などに、路線の維持・確保に向けた要請活動を実施。【総合政策部】</p> <p>○中標津空港において、耐震照査に必要な調査を実施。【総合政策部】</p> <p>○北海道横断自動車道「陸別IC（仮）～陸別小利別」、帯広・広尾自動車道「忠類大樹IC～豊似IC（仮）」の整備を促進。また、北海道横断自動車道「トマムIC～十勝清水IC」については4車線化を促進。【建設部】</p> <p>○地域内外との交通ネットワークの強化を図るため、琵琶瀬茶内停車場線（浜中町）の整備を推進。【建設部】</p>	道北
	道北	<p>○頓別漁港（浜頓別町）において、岸壁の耐震化整備を推進。【水産林務部】</p> <p>○雄志志内海岸（利尻富士町）で海岸保全施設の整備を推進。【建設部】</p> <p>○十勝岳火山防災協議会（上富良野町、美瑛町、富良野市、中富良野町、南富良野町、新得町、各防災関係機関等）及び大雪山山火山防災協議会（東川町、上川町、美瑛町、各防災関係機関等）において、定期的なコアグループ会議を開催し、警戒避難体制の整備を推進するとともに、大雪山山火山防災協議会や火山専門家等の意見を取り入れ、統一的な避難計画の策定を推進。【総務部】</p> <p>○十勝岳（上富良野町）において、監視カメラ等の機器設置等の整備を推進。【建設部】</p> <p>○大雪山（東川町、美瑛町、上川町）において、「火山噴火緊急減災対策砂防計画」の策定を推進。【建設部】</p> <p>○15号の沢（中富良野町）、秀浦地区（小平町）などで治山施設の整備を推進。【水産林務部】</p> <p>○石狩川や留萌川、天塩川、富良野川、古丹別川、クサン川などで、河道掘削、築堤などの治水対策を推進。【建設部】</p> <p>○富良野川（上富良野町）、オチウナイ川（利尻富士町）、留萌南町4丁目2（留萌市）、石狩川上流（上川町）、十勝岳（美瑛川）（美瑛町）などで砂防関係施設の整備を推進。【建設部】</p> <p>○東中東部地区（上富良野町）、浜頓別地区（浜頓別町）、丸松地区（遠別町）などで、農地や農業用施設等の整備を推進。【農政部】</p> <p>○留萌港、稚内港で老朽化対策などの整備を促進。【総合政策部】</p>	道北